

青木東田遺跡発掘調査報告書

(清哲町青木1975番 外地点)

—県営中山間地域総合整備事業 武田の里地区農業基盤整備工事に伴う緊急発掘調査—

2021年3月

韮 崎 市
韮崎市教育委員会
中北農務事務所

青木東田遺跡発掘調査報告書

(清哲町青木1975番 外地点)

—県営中山間地域総合整備事業 武田の里地区農業基盤整備工事に伴う緊急発掘調査—

2021年3月

韮 崎 市
韮崎市教育委員会
中北農務事務所

序 文

韭崎市は武田発祥の地であり、武田氏ゆかりの史跡が数多く残っております。武田氏最後の城である史跡新府城跡、甲斐武田家の祖武田信義が元服したと伝えられる武田八幡神社本殿、願成寺の重要文化財の木造阿弥陀如来坐像、信義の要害と伝えられる史跡白山城跡や信玄の治水思想を伝えるとされる史跡御勅使川田堤防（将棋頭）など、枚挙に暇のないほどであります。

本報告書の青木東田遺跡は、清哲町青木の中谷地区に所在します。これまで清哲町では大規模な調査は行われてきておらず、今回中谷地区に農業基盤整備が計画されたことから、本格的な発掘調査となりました。

本調査は、平成30年度から令和元年度（平成31年度）の2か年に渡る調査となり、弥生時代から中世にかけて幅広い時代の遺構と遺物が確認されました。

特に中世では土師質土器等と共に多量の鉄滓や鞆の羽口が出土し、本調査地周辺において金属生産を行っていた可能性があったこと等が考えられます。このように今回の発掘調査は、これまで伝えられてこなかった清哲町の新たな一面を発見出来た調査と言えます。

最後に農業基盤整備工事前に、発掘調査にご理解をいただきました、事業者や地元を初めとする関係者の方々のおかげで、本報告書を刊行することが出来ました。改めて関係者の方々へ感謝を申し上げます。

令和3年3月31日

韭崎市教育委員会

教育長 堀 川 薫

例 言

1. 本書は菰崎市清哲町の県営中山間地域総合整備事業 武田の里地区の農業基盤整備工事に伴う青木東田遺跡（清哲町青木1975番 外地点）の発掘調査報告書です。
2. 発掘調査および整理作業は、中北農務事務所から調査に関する委託を受けた菰崎市教育委員会が行いました。
3. 本書の編集・執筆は半澤直史が担当した。
4. 整理作業および本報告書の作成は、菰崎市教育委員会が実施しました。
5. 発掘調査業務の内、基準点測量業務及び遺構の測量の一部を、(株)テクノプランニング・シン技術コンサル株式会社に委託をして行いました。
6. 発掘調査業務の内、グリッド杭作成の一部・空中写真撮影及びオルソ画像作成図化をシン技術コンサル株式会社に委託をして行いました。
7. 整理作業業務の内、洗浄・注記作業の一部をシン技術コンサル株式会社に委託をして行いました。
8. 本書に関わる出土品・諸記録は菰崎市教育委員会において保管されています。
9. 本書の遺物と遺構の報告は、2018年度、2019年度の順で報告します。
10. 調査組織
調査主体
菰崎市教育委員会
調査担当
半澤直史（菰崎市教育委員会）
菰崎市教育委員会
教育長 堀川 薫，課長 佐藤道平，
文化財担当 関根俊明，渋谷賢太郎，
半澤直史，佐々木智子
11. 調査を進めるにあたり、次の方々から協力、助言を得ました。
助言（順不同、敬称略）
小野正敏，佐々木 満，新津 健，
末木 健，山下孝司，平野 修，畑 大介
調査関係者（順不同、敬称略）
角田勇雄，原 義仁，小幡敦一，中村哲夫，
保坂梯司，土屋二郎，大村保美，三浦幸栄，

市野重茂，三枝隆男，野口正文，横内 徹，
深松一英，向山久美子，横森宝子，
有井ふみ子，津金とめ子，石原ひろみ，
砂畑利子，土屋啓子，深沢真知子，
清水裕子，阿部由美子，片山未希，
杉山千里，横森とく子，藤巻源文，
藤巻直子，藤巻卓雄，田邊春美，小倉喜彦，
吉川哲仁，石井啓一，武井ひとみ，
三井清美，有泉由美子，能登和子

最後に、発掘調査・整理作業・報告書刊行に尽力をいただきました方々、調査にご理解を下さいました地元住民の方々、農業基盤整備事業の関係者各位に御礼申し上げます。

凡 例

1. 報告に関わる名称については以下の通り記載する。
調査年度 2018年度 — '18
2019年度 — '19
調査区 調査区1 — CH1
調査区2 — CH2
遺 構 竪穴建物跡 — JU
溝状遺構 — MZ
集石遺構 — SS
土 坑 — SD
ピット — PT
2. 遺構・遺物・セクションの実測図の縮尺は、原則として以下の通りである。
遺 構 竪穴建物跡 — 1/20, 1/40, 1/60, 1/80,
溝状遺構 — 1/120
土 坑 — 1/20
ピット — 1/20, 1/60
遺 物 土 器 — 1/2, 1/3
陶磁器 — 1/2
金属製品 — 1/2
石製品 — 1/3, 1/4

目 次

序 文

例 言

凡 例

本文目次

第1章 序 説

- 第1節 調査経緯と経過
- 第2節 遺跡の地理的環境
- 第3節 遺跡の歴史的環境

第2章 調査方法と基本層序

- 第1節 調査方法
- 第2節 基本層序

第3章 出土した遺構と遺物（2018年度）

- 第1節 竪穴建物跡
- 第2節 溝状遺構
- 第3節 土坑・ピット
- 第4節 遺構外出土遺物

第4章 出土した遺構と遺物（2019年度）

- 第1節 竪穴建物跡
- 第2節 溝状遺構
- 第3節 集石遺構
- 第4節 土坑・ピット
- 第5節 遺構外出土遺物

第5章 総括

- 第1節 発見された遺構について
- 第2節 出土した「鍛冶遺構」について
- 第3節 おわりに

図版目次

- 第1図 青木東田遺跡と周辺の遺跡
- 第2図 青木東田遺跡の位置図
- 第3図 青木東田遺跡調査区全体図
- 第4図 2018年度調査区全体図
- 第5図 2019年度調査区1全体図
- 第6図 2019年度調査区2全体図
- 第7図 2018年度調査区1 1号竪 平断面図
- 第8図 2018年度調査区1 2号竪 平断面図
- 第9図 2018年度調査区2 1号竪 平断面図
- 第10図 2018年度調査区2 2号竪 平断面図

- 第11図 2018年度調査区2 1号溝、2号溝 平断面図
- 第12図 2018年度調査区2 2・3号土坑4号土坑 平断面図
- 第13図 2019年度調査区1 1号竪、1号溝 平断面図
- 第14図 2019年度調査区1 2号竪平断面図①
- 第15図 2019年度調査区1 2号竪平断面図②
- 第16図 2019年度調査区1 2号竪平断面図③
- 第17図 2019年度調査区1 3号・6号竪平断面図
- 第18図 2019年度調査区1 4号・5号竪平断面図
- 第19図 2019年度調査区1 1号集石平断面図
- 第20図 2019年度調査区1 30号・32号ビット柱痕平断面図
- 第21図 2019年度調査区2 1号竪平断面図
- 第22図 2019年度調査区2 2号・3号竪、1号集石平断面図
- 第23図 2019年度調査区2 4号竪平断面図
- 第24図 2019年度調査区2 4号竪カマド平断面図
- 第25図 2019年度調査区2 2号集石平断面図
- 第26図 2018年度調査区1 調査区出土遺物
- 第27図 2018年度調査区2 出土遺物
- 第28図 2019年度調査区1 1号竪出土遺物
- 第29図 2019年度調査区1 2号竪出土遺物
- 第30図 2019年度調査区1 2号竪カマド出土遺物
- 第31図 2019年度調査区1 3・4・5号竪出土遺物
- 第32図 2019年度調査区1 5号竪・1号溝・1号集石出土遺物
- 第33図 2019年度調査区1 土坑・ビット出土遺物
- 第34図 2019年度調査区1 出土遺物①
- 第35図 2019年度調査区1 出土遺物②
- 第36図 2019年度調査区1 出土遺物③
- 第37図 2019年度調査区2 1・2号竪出土遺物
- 第38図 2019年度調査区2 2・3号竪出土遺物
- 第39図 2019年度調査区2 3号竪出土遺物
- 第40図 2019年度調査区2 3号竪出土遺物
- 第41図 2019年度調査区2 3・4号竪出土遺物
- 第42図 2019年度調査区2 4号竪・3号溝出土遺物
- 第43図 2019年度調査区2 3・4号溝出土遺物
- 第44図 2019年度調査区2 溝・集石・土坑出土遺物
- 第45図 2019年度調査区2 土坑出土遺物
- 第46図 2019年度調査区2 土坑・遺構外出土遺物

表目次

- 青木東田遺跡中世遺物器種組成表
- 青木東田遺跡遺物観察表

写真図版

抄録

第1章 序 説

第1節 調査経緯と経過

周知の埋蔵文化財包蔵地である青木東田遺跡地内(清哲町青木1975番 外地点)で農業基盤整備事業があり、中北農務事務所から文化財保護法第94条に関わる届出が市教育委員会(以下市教委)へ提出された。市教委では、計画予定地で埋蔵文化財包蔵地であり、近隣の発掘調査事例が無いこと、周知の埋蔵文化財包蔵地未確認地も多いことから、農業基盤整備工事範囲内において全面的に試掘調査の必要があるとの意見を付して山梨県教育委員会に經由進達を行った。

後日、山梨県教育委員会(現 山梨県観光文化部文化振興・文化財課)から試掘調査の指示が出され、市教委と事業者との間で協議を行った。協議の結果、初めに本遺跡の所在する山梨県道12号市街地南アルプス中央線より釜無川側の試掘調査に着手することとなった。

試掘調査の結果、青木東田遺跡地内で遺構・遺物が検出された。調査後に事業者と協議を行い、道路新設箇所であることから、現地保存不可能であるとの協議結果となった。なお、その他の周知の埋蔵文化財包蔵地未確認地も試掘調査を行ったが、遺構・遺物は確認出来なかった。

これらの試掘調査結果から、現地保存不可能な箇所のみ記録保存を目的とした発掘調査を市教育委員会で行うこととなった。本調査は、調査範囲内の雑木の伐採や報告書の刊行等も含め、3か年計画とした。

第2節 遺跡の地理的環境

市街地は、山梨県の北西部に位置している。市の周囲は、北に八ヶ岳、西に鳳凰三山、東に茅ヶ岳と三方を山に囲まれている。また市内中心部を横断するように七里岩台地があり、台地の西には釜無川、東に塩川という二大河川が流れている。東西にやや長い市域は、河川の開析などによって複雑な様相を呈しており、大きく釜無川右岸・七里岩台地・藤井平・塩川左岸の4つの地域に分けることができる。

本調査対象地の青木東田遺跡(清哲町青木1975番外地点)は、市街地南アルプス山脈と釜無川に挟まれ、沖積地と河岸段丘状の台地と大きく2つに分けるこ

とが出来る。

その内本遺跡地周辺の河岸段丘は、南アルプス山脈から流れる渓流により扇状地となっており、緩傾斜地状の集落地帯と棚田状の水田・畑地帯に分かれている。本遺跡は、河岸段丘上の標高約390mで、矢口沢に隣接する舌状台地上の水田・畑地において発見された。

第3節 遺跡の歴史的環境

青木東田遺跡は、清哲町青木の中心部に位置する。中心部は、大字青木の南端の集落である。近世の『延享三年(一七四八) 青木村指出明細帳』によれば、「当村・仲屋・御座石」と区分されており、別の記載では「枝郷仲屋」とも記されている。また『甲斐國志』では、「仲屋組」とある。現在の大字青木全体が近世の青木村に当たり、中心部は仲屋という名で御座石地区と共に、「枝郷仲屋」或は「仲屋組」として別の集落として近世から存在していたことがわかる。

この地域は駿信往還が通る交通の要衝であり、中世では、武川衆が居住していた地域でもある。武川衆は甲斐源氏の一派であり、一条氏に連なる家系で、折井氏・入戸野氏・柳沢氏等市街地から北杜市の地名を苗字とする一族であり、苗字の地に居館を構えたと伝えられている。青木にも常光寺近辺に青木氏が屋敷を構えたとされており、常光寺境内には市指定文化財の「常光寺青木氏歴代の墓」が存在している。しかしながら、清哲町では本格的な発掘調査はこれまで行われていない。

一方隣接する市街地では、武田東畑遺跡で中世のかわらけ等が多数出土している。この地域は白山城跡や武田八幡宮に代表されるように、武田氏関係の文化財が多く残る地域である。さらに南の旭町では、大輪寺東遺跡に代表される遺跡から中世の遺構・遺物が確認されている。現在の大輪寺境内地は、甲斐源氏一派の甘利氏の館跡との伝承が残っている。

第2章 調査方法と基本層序

第1節 調査方法

工事設計図面から調査範囲を設定したのち、重機を使用して遺物包含層まで表土剥ぎを行い、その後移植ゴテ等を使用して人力で遺構確認を行った。確認された遺構は、構築年代が新しいものから順次行うように努めたが、新旧関係不明な遺構等については同時に調査を行い、土層観察により新旧関係を把握した。また適宜トレンチを設置して状況把握に努めた。

土坑・ピットは、半截して堆積状況を確認後、発掘を行った。竪穴建物跡・溝状遺構・集石遺構はセクションベルトを設定し、適時層序観察を行いながら堆積状況を確認した。

出土した遺物は、遺構内外問わず微細なものは一括遺物として取り上げ、ある程度の大きさがあり、かつ原位置がある程度わかるものは、光波測量機器を使用して個別に取り上げた。

遺構の実測においては、基準点を設置し、国家座標を付け、トータルステーションや空撮による測量を実施した。

調査区及び遺構の図版は、その成果と市教委の測量成果を元に作成している。写真撮影についてはデジタルカメラを使用し、調査状況・遺構・遺物出土状況・発掘状況等の撮影を適宜行った。

第2節 基本層序

青木東田遺跡は、釜無川右岸の河岸段丘上に位置し、南アルプス山脈と釜無川に挟まれた水田・畑地内にある。遺跡周辺は棚田状の耕作地であるが、西から東へ緩やかに下る緩斜面となっている。基本層序は、最も土層観察に適していた、2019年度調査区2の北壁セクションに設置した。調査地点は、以前は耕作地として利用されていたようだが、現在は放棄地となっており竹林・雑木林が一面に広がっていた。

層序は上位から下位にⅠ表土層、Ⅱ黒褐色土層(旧耕作土)、Ⅲ明黄褐色土層(遺構確認面)、に分けられる。なお、調査区全体に、樹木や耕作等によって乱れた層序であったことを、付記しておく。

第3章 出土した遺構と遺物 (2018年度)

第1節 竪穴建物跡

[調査区1]

1号竪穴建物跡(第7図)

調査区1の中央から検出した。東西約4.5m、南北は建物の南側は表土剥ぎの際削ってしまったため、確認出来なかった。建物軸はやや北東向きである。建物内から、ピットが5基・土坑1基を検出した。土坑はやや四角形状であり、建物跡の東壁に繋がる。

遺構の南東から、石を検出した。断面観察や削った底から焼土が若干ではあるが検出できたため、カマド跡があったと思われる。そのためこれらの検出した石は、カマドを構築していた石が北へ流れたものであると判断した。

遺構の内部からは、平安時代の土師器が出土している。また1点のみであるが、鉄滓が出土している。

2号竪穴建物跡(第8図)

調査区1の北東から検出した。東西は東側が調査

区外へ延び、南北は北壁が溝によって削られているため、全体は把握出来なかった。また南壁は土坑によって一部が削られている。建物内からは、土師器を中心に平安時代の遺物を検出している。また一部中世のかわけ・鍋類を検出しているが、北側の溝状遺構の遺物が混ざり込んだものと考えられることから、平安時代の建物跡と考えられる。

[調査区2]

1号竪穴建物跡(第9図)

調査区2の中央、2号溝跡の東側から検出。四方約4mの正方形の建物跡で東側隅からカマドを検出した。現地表面からの掘乱しが著しく、おおよその床面近くまで掘削を行うまでプランを性格に確認出来なかった。

遺構の南西側からピットを2基、カマドの付近から1基検出した。南西の2基の性格は捉えられないが、カマド付近のピットはカマドに伴うものの可能性を考えられる。

カマドは、北西方面へ崩されており、袖石や天井石と思われる石は確認出来たが、煙道までは確認出来なかった。

遺構内からは、平安時代の土師器・須恵器・灰釉陶器が遺構内全体から出土した。土師器の中に1点完形の坏が出土し、年代的に10世紀後半と捉えられ、建物跡の年代もこの頃と考えられる。

2号竪穴建物跡（第10図）

調査区2の北西端から検出した。東には2号溝、1号竪穴建物跡と続くが、本遺構はそれらの遺構よりも1段下からの検出となった。南北約6.5m、東西は西壁が調査区外へ延びていることから、全長は不明であるが検出した長さは最も長いもので約4.5mとなっている。建物軸は、やや北東向きである。遺構内からは、南からビット1基、南東からごく一部ではあるが、周溝跡を検出した。

遺構内には、弥生時代後期から古墳時代前期にかけての土師器が出土している。また炭化材20本を検出している。炭化材は建物跡の中央からやや南東に集中して14本検出され、残り6本は、北西端から検出された。炭化材は主に建物跡の柱に使用されていたものと推測され、この建物は火災等により焼失して使用されなくなった建物跡と考えられる。

第2節 溝状遺構

〔調査区2〕

1号溝（第11図）

調査区2の東側、1号竪穴建物跡の南東端から検出。幅約1mで建物跡から南へ流れ、調査区1の2号竪穴建物跡の北壁を削りながら東へ曲がり、遺構外へ延びている。

遺構から中世のかわらけ1点、銅類1点を検出している。検出された遺物は少ないが、平安時代の建物跡を削りながら、且つ中世の遺物が出土していることから、中世以降に造られた溝であると考えられる。

2号溝（第11図）

調査区2の中央、1号竪穴建物跡と2号竪穴建物跡の間を流れるような状態であった。溝の幅は約50cmで北から南へ流れていたものと思われる。検出した時は、遺構内に砂利・小石が充満していた。また溝の南側は、2号・3号土坑によって削られている所があり、更にその南の途中で溝跡が確認出来なくなる。

3号溝

調査区2の北西側から検出。幅約70cmで、調査区外から2号竪穴建物跡の北側で止まっている。遺構内から遺物は検出されなかった。

第3節 土坑・ビット

2018年度調査では、土坑10基・ビット49基を検出した。ここでは、特徴的な土坑・ビットを報告する。

〔調査区1〕

46号ビット

2号竪穴建物跡の南西から検出した。ビット内から、青磁の碗が出土している。同安窯で年代は12世紀末から13世紀頃と考えられる。

〔調査区2〕

2号・3号土坑（第12図）

調査区2南側に、2号溝を切る状態で検出した。当初は同一の遺構と捉えていたが、遺構の土層観察を行うと3号土坑が2号土坑を切った状態であり、別々の土坑であった。内部から平安時代の土師器が検出されたが、遺構は非常に歪な様相であり、風倒木の可能性も考えられる。

4号土坑（第12図）

調査区2の南側から検出した。直径約1.5mの大型の土坑であり、平安時代の土師器を若干検出した。また土坑の中心から長方形の石を検出した。土坑の内部は歪な様相で風倒木の可能性も考えられるが、検出した石の意味も踏まえた上で土坑の性格を考える必要があるため、本報告では断定を控える。

第4節 遺構外出土遺物

本調査では、遺構に伴わない遺物も多く検出している。2018年度調査では、土師器を中心に平安時代の遺物が殆どを占めるが、残存率の低い土器片が殆どで器種を特定出来る遺物は少ない。

次いで中世の遺物が若干ではあるが検出している。以下、中世遺物の概要を述べる。調査区1からは、かわらけ4点・銅類5点・鉢類2点・瀬戸美濃の鉢類1点・白磁碗1点が出土している。白磁は、残存率が極めて低く時代の特定は難しい。若干の特徴として外面に印刻状のものが見られる。瀬戸美濃産の国内陶磁器も残存率が低いが、大窯期の鉢類であると考えられる。

第4章 出土した遺構と遺物 (2019年度)

第1節 竪穴建物跡

[調査区1]

1号竪穴建物跡 (第13図)

調査区1の北端から検出された。東西約3.4m、南北約4mで、攪乱が著しく建物跡の上場は確認することが出来なかった。遺構の南東隅から南端は、1号溝及び攪乱によって削られていた。

遺構北側にカマド跡を検出した。カマドは大きく崩れており、形成している石から焼成した痕跡は確認出来るが、焼成面や煙道等は確認出来なかった。遺構南側両端からは土坑が検出され、うち一つは焼土に満ちていた。当初はこの地点にカマドがあったものを北側に移した可能性がある。

土坑から遺物は確認出来なかった。カマド跡周辺からは、須恵器の碗や土師器の壺・甕類の破片が出土した。

2号竪穴建物跡 (第14図) (第15図) (第16図)

1号竪穴建物跡の南東に位置する。東西・南北共に約4mの建物跡で、一部に周溝跡があり、東カマドを検出した。遺構内にビットが計10基を検出し、柱穴の可能性を踏まえて調査をしたが、軸を確認するには至らなかった。カマド跡は崩され、煙道は確認出来ないが、袖石や焼成面が残存しており、本調査では比較的良好な状態であった。

遺構内からは平安時代の遺物を多く検出し、生活面・カマド内・周溝内からそれぞれ出土した。多くはカマド内から出土し、次いで生活面、周溝内からは1点土師器が出土したのみであり、遺構内のビットからは出土しなかった。出土遺物のほとんどが土師器であるが、カマド内からは渡来銭も検出している。

また平安時代の遺物に紛れて、中世のかわらけも数点確認した。この遺構の上に中世の遺構があった可能性があるが、プラン精査や土層観察等では遺構の存在を認めることは出来なかった。

3号・6号竪穴建物跡 (第17図)

2号竪穴建物跡の南側に位置する。当初は1つの遺構を想定して調査をしていたが、進むにつれ2つの遺構が重なりあう状態であることを確認した。新旧関係は3号竪穴建物跡が古く、6号竪穴建物跡が新しいという関係となる。

3号竪穴建物跡は、6号竪穴建物跡によって壊されているためか、遺構の状態は不明瞭である。遺構範囲は、残存するところから推定して、東西・南北共に約2.4mと、他の建物跡よりもやや小ぶりの建物跡で、軸はやや北西向きである。南西側に焼土があり、炉等があった可能性がある。

6号竪穴建物跡は、東西4m・南北3mの長方形である。遺構の東壁は、攪乱によって不明瞭であり、推定で線を判断した。また遺構の中心よりやや西に焼土が確認出来、床面を掘り込んで焼成していたものと思われる。これらの遺構は、砂利や小石等が入り、土層が不明瞭であるが、3号竪穴建物跡があった箇所の一部を埋めて6号竪穴建物跡を造った可能性が考えられる。

6号竪穴建物跡からは、かわらけ13点・古瀬戸大釜1点が出土している。このことから、遺構の時期は中世であると判断した。3号竪穴建物跡は遺物が出土しておらず、時期は判別出来ない。

4号竪穴建物跡 (第18図)

6号竪穴建物跡の西側に位置する。東西3m・南北4.5mの長方形である。床面からはビット6基確認出来たが、ビット同士の連続性は感じられない。遺構の北側と南西側に焼土が検出され、床面を掘り込んで焼成していたものと思われる。

出土遺物は、かわらけ4点・瓦質土器1点・近世の陶器1点が出土した。出土したかわらけの内、2点は黒色の成分が付着したかわらけであり、接合出来なかったが、同一個体であると考えられる。瓦質土器は、残存率が低く明確ではないが、銅類と思われる。これらの遺物は中世と捉えられ、遺構の年代も中世と判断した。

5号竪穴建物跡 (第18図)

6号竪穴建物跡の南東側に位置する。東西3m・南北4.5mの長方形である。南西角はビットによって削られている。遺構の中央からやや南から段差のように1段下がり、西壁付近からビット1基を検出した。遺構内の段差の性格は不明である。

遺構からは、かわらけ31点・内耳鍋1点・鉢類8点・瓦質土器1点・白磁1点が出土した。時代はいずれも中世。

[調査区2]

1号竪穴建物跡(第21図)

調査区2の南東、1号溝と2号溝の間から検出した。四方約3mでややいびつではあるが、正方形の遺構である。遺構内には、ビット4基を確認した。柱穴の可能性はあるが、ビットの位置が不整形であるため性格を確定するのは、今後検討する必要がある。

遺構からは、中世のかかわり3点・鉢類3点が出土した。その内かわり3点が接合可能となり、底部に穴が2点存在している。手づくねかわり3点と考えられるが11～12世紀の手づくねとは異なる様相であるため、今後検討が必要である。

2号竪穴建物跡(第22図)

調査区の東端、調査区2の3号竪穴建物跡の下から検出。北東から南西へ傾く軸の遺構と考えられる。南北約4m、東西は約3mのところで調査区外となる。遺構の全体の把握は出来なかったが、正方形の遺構であると推測出来る。遺構の床面まで調査をしたところ、焼土の混じる掘り込み面が確認出来た。掘り込みの面を掘削すると、土器と焼土の混じる土坑となった。

土坑は計3基であり、内1基は調査区外へ延びている。土坑の内部には、歪な形状の掘り込みがいくつも残っていた。土坑内部から検出した遺物には、火を焚く際に使用されたと考えられる円筒土器の破片が検出されており、周辺から焼土が確認されることから、焼成等を行うために使用された遺構の可能性が考えられる。

また遺構の壁直下から周溝が確認することが出来たが、南側の一部が若干歪であり、土坑の掘り込みが影響している可能性がある。

遺物は、平安時代の土師器・須恵器・灰釉陶器及び中世のかかわり・内耳鍋、また特殊な物として、炭状の種子が検出された。中世の遺物は遺構の覆土から検出されており、平安時代は遺構の上層から床面・土坑内から検出された。また周溝の南側からは平安時代の完形の土師器が検出された。

このことから、この遺構で検出された中世の遺物は、上にある3号竪穴建物跡の遺物であり、遺構の年代は平安時代であると考えられる。

3号竪穴建物跡(第22図)

調査区の東端から検出。東西約3mまで確認し、

それ以降は調査区外へ伸びている。南北は約12mで、北端は3号溝に当たり、確認出来なかった。遺構内からビットや土坑等は確認出来なかったが、南端付近からは、東西に石列が敷かれていた。

遺構内からは、多量の中世土器や貿易陶磁器、天目茶碗を検出した。内訳は、かわり102点、銅類99点、鉢類10点、器種不明の土師質土器1点、常滑壺1点、瀬戸・美濃天目茶碗4点、信楽壺27点、青磁3点である。また土器・陶磁器類とは別に輪の羽口2点、多量の鉄滓を検出した。遺物は、遺構内全体から検出することが出来たが、その中で輪の羽口や鉄滓は石列付近からやや密集するように検出された。

遺構の年代は中世であると判断出来るが、遺構の一部が確認出来たに過ぎないため、性格については現段階では断定することは出来ない。

4号竪穴建物跡(第23図)(第24図)

調査区の北東、2号竪穴建物跡・3号竪穴建物跡の西側から検出。東西約6m・南北約5.5mで、北東から南西へ傾く軸の遺構と考えられる。南東方向からカマド跡を検出し、一部を除き遺構内全体で周溝を確認した。

遺構内には、北側に直線状の溝遺構、南側に波状の溝遺構を確認した。いずれも、東西に流れ、建物跡の西壁を崩して続いていることから、建物が廃虚となつてからのものであると考えられる。遺構内からビットが計4基を検出したが、柱痕までは確認出来ていない。

南東のカマド跡は著しく崩されていたが、焼成面が残存しており、南西隅には若干であるが、煙道跡を確認した。

遺構内からは平安時代の遺物を多く検出し、生活面・カマド内からそれぞれ出土した。特にカマド内から多く出土し、次いで生活面では、内黒土器等を検出した。また平安時代の遺物に紛れて中世の天目茶碗も検出したが、床面からかなり上であることから、混ざり込みであると判断し、平安時代の遺構と判断した。

第2節 溝状遺構

〔調査区1〕

1号溝（第13図）

調査区1北端から南西方面へ流れるような状態で検出した。遺構の先端は別の遺構によって削られていたため確認は出来なかった。遺構は、1号竪穴建物跡の南東角を削っており、1号竪穴建物跡より新しい遺構であると判断できる。遺構からは、平安時代の土器・かわらけを若干検出した。

〔調査区2〕

1号溝

調査区南東から検出。幅約2mで西側の端は広がりをもせ、別の遺構によって削られている。東側は調査区外へ流れているため全長は不明である。遺物は東端3号建物跡の近くで、中世土器の鍋類1点、器種不明の土師質土器3点を検出し、また3号竪穴建物跡付近から鉄滓が若干出土した。時期は中世以降と考えられる。

2号溝

調査区東側、3号建物跡西側から検出。約1m幅で、南西側へ流れ、1号竪穴建物跡の北西隅近くで止まる。北側の端は確認出来ず、3号溝へ当たる可能性が考えられる。遺物は、検出されなかったため、時期は特定出来ない。

3号溝

2号竪穴建物跡及び3号竪穴建物跡の北側から検出。東側の調査区外へと流れているため全長は不明である。3号竪穴建物跡の北側を削るような状態であるが、この地点はプラン状況が煩雑であり、遺構同士の切り合い関係は判断出来なかった。遺構内からかわらけ、鉢類の中世土器を検出した。また中世土器と同時に青銅製品を3点検出している。時期は中世以降と考えられる。

4号溝

調査区の西側から検出。幅2mで北側は北西側へ屈曲しているが、攪乱によって崩されている。遺構内からは、平安時代の土師器、中世のかわらけ、鍋類、石臼が出土した。中世以降の溝と考えられる。

5号溝

4号竪穴建物跡の西側から検出。幅0.5mで東西

を直線状に流れ、西側の端は歪な広がりをみせている。遺構内からは、土師器・かわらけが出土した。中世遺構の溝と考えられる。

第3節 集石遺構

〔調査区1〕

1号集石遺構（第19図）

調査区西壁付近から検出。東西南北約2mの範囲で楕円形状に大小の石が密集している状態で確認された。石の間から平安時代の坏や中世のかわらけ5点、内耳鍋2点が混ざり込んでいた。深さは約1m程であるが、石が混ざり込むのは確認面から約20cm程である。

検出した遺物は年代幅が広く、年代の特定が難しいが、遺構の東側にやや段差のような高まりが確認出来るため、地下式土坑の可能性も考えられる。

〔調査区2〕

1号集石遺構（第22図）

3号竪穴建物跡内から検出。3号竪穴建物跡の西端から東へ直線状に続き、遺構外へ繋がると考えられる。調査中に鉄滓が多く検出され、遺構の底部には若干の焼土と鉄分が混じっていた。付近には、籾の羽口を3点検出した。また石の間から、かわらけや信楽焼の壺が検出された。

2号集石遺構（第25図）

調査区南側から検出。東西南北共に1.5m程の正方形に石が組み込まれ、内部は大小の礫が密集している状態であった。遺構は確認面から約30cmまで掘り込まれており、かわらけ2点・骨2点が混在していた。底には、南西隅から炭化材を検出した。

遺構は炭化材が検出されたことから、火を燃すために使用された可能性が想定出来るが、性格等は、他の調査事例を踏まえての検討が必要であると考えられる。

第4節 土坑・ピット

2019年度調査では、土坑88基・ピット231基を検出した。ここでは、特徴的な土坑・ピットを報告する。

5号土坑

調査区1の東から検出。東西に楕円形状で、東壁によって東側の端は確認出来なかった。調査中にかわらけ5点を検出した。状況から、混ざり込んだ遺

物であると考えられる。

32号土坑

調査区1の西側、4号竪穴建物跡の西側から検出。やや北東側に傾いた状態の細長い形状をしている。土坑の内部がややいびつな状態であり、風倒木の可能性もある。出土遺物は、かわらけ5点・内耳鍋1点を検出した。

37号土坑

調査区1 6号竪穴建物跡の南から検出。竪穴遺構の南壁を崩している様相であり、新旧関係としては、土坑の方が新しいものと考えられる。土坑の中からは、かわらけ3点・鍋類7点を検出した。検出された遺物は、竪穴遺構に伴うものと考えられる。

40号土坑

6号性格不明遺構と2号集石遺構の間から検出した。土坑はやや正方形形状であり、北側にビットが付随している。遺構内から遺物は検出出来なかった。形状から地下式土坑の可能性を指摘しておく。

83号土坑

調査区2の西側から検出。遺構内の北から南へ段差を確認することが出来る。また遺構の南からにビットを検出している。遺構内から、常滑産の壺4点・かわらけ1点を検出した。遺構の形状から、地下式坑の可能性がある。

85号土坑

調査区中央のやや南から検出。遺構内の北から南へ段差を確認することが出来る。また遺構の北側からビット3基、遺構外の東側にビット1基を検出している。遺物はかわらけ1点を検出した。遺構の形状から、地下式坑の可能性を指摘しておく。

87号土坑

87号土坑の北から検出。遺構内の西から東へ段差を確認することが出来る。遺構内からかわらけ4点を検出した。遺構の形状から、地下式坑の可能性を指摘しておく。

88号土坑

調査区の南端から遺構の概ね半分を検出。堆積状況が通常の土坑とは異なり天地返しのような状況で

あったことから、風倒木痕と判断したが、遺構内からは、かわらけ19点・鍋類40点を検出したため、別の性格の遺構の可能性も考えられる。

30号・32号ビット (第20図)

30号・32号ビットは調査区1の南東から検出した。各ビットには遺構のほぼ中心から柱穴が検出された。掘立柱建物跡の可能性を想定して、周囲を調査したが確認は出来なかった。各ビットの中から遺物は検出出来なかった。

第5節 遺構外出土遺物

本調査では、遺構に伴わない遺物も多く出土した。特に2019年度調査では、平安時代及び中世の遺物が殆どであり、年代的にも遺構内遺物と連動しているものと考えられる。

平安時代は、殆どが土師器である。特殊なものとして転用硯を検出し、朱墨の痕跡が見られる。

中世では、土師質土器が大半を占める。土師質土器の内訳は、かわらけ103点・鍋類27点・壺甕類13点・鉢類6点を検出し、特殊な遺物として香炉の破片4点を検出している。また少量であるが、瓦質土器の鍋類3点・器種不明の遺物3点、瀬戸美濃の碗類・鉢類それぞれ1点検出している。

調査区1では、渡来銭が7枚検出している。渡来銭は北宋時代の物が4枚、明時代の物が3枚である。その内北宋の景祐元宝(1034年)、禪符元宝(1008年)、明の宣徳通寶(1433年)を同時に検出した。北宋時代と明時代の渡来銭が同時期に使用されていたものと思われる。また握り鉄か刀子と思われる鉄製品を検出している。

第5章 総括

第1節 発見された遺構について

本調査は、2018年度と2019年度の2か年に及ぶ調査となった。2018年度調査では、弥生時代後期から古墳時代前期にかけての建物跡1軒、平安時代の建物跡3軒、溝状遺構3条、土坑10基、ピット49基を発見した。2019年度では、平安時代の建物跡5軒、中世の建物跡5軒、溝6条、集石遺構3基、土坑78基、ピット231基を発見した。以下、各時代の概略を述べる。

[弥生時代後半～古墳時代]

弥生時代後期から古墳時代前期の遺構は、焼失建物跡が1軒のみである。検出地点は、調査区西側で、東側では遺物も皆無であったことから居住活動範囲が西の山の斜面側に展開する可能性がある。

[平安時代]

平安時代の建物跡は、主にやや北東向きの軸で南東にカマドを設置していることが共通している。2018年度調査区2の1号竪穴建物跡の出土遺物や2019年度出土の転用硯などから、10世紀代の集落跡の可能性が考えられる。

[中世]

中世は、14世紀から15世紀頃のかわけや16世紀と思われる信楽焼きの壺が出土している。市内で中世の著名な遺跡として、武田東畑遺跡・大輪寺東遺跡・史跡新府城跡などが挙げられる。武田東畑遺跡では、出土遺物から12世紀から13世紀頃と推定。大輪寺東遺跡は、15世紀から16世紀後半と比定されている。史跡新府城跡は、武田勝頼によって築かれた城郭であり、年代は16世紀後半となる。

今回の青木東田遺跡は、武田東畑遺跡から史跡新府城跡の間の時期。大輪寺東遺跡に近い時期と考えられる。但し16世紀頃の信楽壺も出土しており、14世紀から16世紀まで存在していた可能性が考えられる。

また形状から、地下式坑の可能性が考えられる遺構がいくつか存在している。これらの遺構について、他の調査事例を確認しつつ、性格を深く検討することを課題としたい。

第2節 出土した「鍛冶遺構」について

2019年度調査において調査区2の東端に東西約3m、南北は約12mの長方形の遺構が出土した。但し遺構の一部が確認出来たに過ぎないため、規模はより大きな遺構であると推定される。

遺構内からは、鉄滓や轆の羽口(南側)及びかわらけや陶磁器が検出されている。鉄滓や轆の羽口が出土していることから、金属製品を生産していた鍛冶遺構の可能性が考えられる。これらの鉄製品と同様に3号溝状遺構で検出された青銅製品の考察も必要となってくる。

その一方で、青磁等の貿易陶磁器が出土している。これらは威信材と認識されており、調査区内またはその近隣に有力者が存在していた可能性も考えることができる。

金属関係の鍛冶遺構と考えた場合、遺跡の台地下は釜無川で、そこから砂鉄や高師小僧が採集出来た可能性もあり、金属生産が可能な環境であった可能性が考えられる。

有力者の居住地と考えた場合、最も考慮しなければならないのは青木氏との関係である。青木氏館跡は、常光寺付近と推定されており、本遺跡地付近とは考えにくい。また屋敷跡と判断出来る礎石や柱穴跡等が確認出来ないため、屋敷跡と判断するには材料が少ない。

これらの性格が異なる遺物が一つの遺構に出土する事例があるのか、他の調査事例を検討して遺構の性格を迫及することを今後の課題とした。

第3節 おわりに

本遺跡では、弥生時代後半から中世までの遺構・遺物を確認した。文献も踏まえれば、近世に中谷地区に村が存在していたことは明らかであるため、弥生時代から連綿と人々が居住していた地域であると言えるだろう。しかしながら、土層観察などでは土砂が流れた痕跡が確認され、何度も災害に見舞われていたことが想定できる。これは現在でも本遺跡付近は、土砂災害危険地帯に認定されていることからそのことが伺える。

特に注目すべきは、中世の遺構・遺物類であり、様々な性格を考えられることができ、同時に検討課題も多い遺跡である。その中でも14世紀～15世紀代の遺物の出土事例は県内でも極めて少なく、それが確認出来た意義は大きい。

この地域は調査事例が殆ど無く、調査前の地元住民への聞き取り調査においても、歴史の浅い集落であると聞いていたが、予想に反して古来から人々が居住する場所であった。

表1 青木地区産出中世遺物種別構成表(2018年度調査)

物品名	鉄器(鉄器Ⅰ)			鉄器(鉄器Ⅱ)			鉄器(鉄器Ⅲ)			鉄器(鉄器Ⅳ)			鉄器(鉄器Ⅴ)			鉄器(鉄器Ⅵ)			鉄器(鉄器Ⅶ)		
	数	割合	割合	数	割合	割合	数	割合	割合	数	割合	割合	数	割合	割合	数	割合	割合	数	割合	割合
土器類(土器類)	11	11	84.6%	1	1	100.0%	1	1	100.0%	2	2	100.0%	0	0	0.0%	3	3	100.0%	2	1	100.0%
鉄器類	4	4	30.7%							1	1	100.0%									
銅器類	5	5	38.4%	3	3	100.0%	1	1	100.0%	1	1	100.0%				6	4	66.7%			
青銅器類																					
銀器類	2	2	15.4%													3	1	33.3%	3	1	100.0%
その他																					
五葉土器類	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%
銅器																					
土器																					
銅器類	0	0		0	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%
銅																					
銅器類	1	1	7.6%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%
銅器類																					
銅器																					
銅器																					
銅器	1	1	7.6%																		
銅器類	0	0		0	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%
銅																					
銅器類	1	1	7.6%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	1	1	100.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%
銅器																					
銅器													1	1	100.0%						
銅器																					
銅器	1	1	7.6%																		
銅器	11	11	100.0%	1	1	100.0%	1	1	100.0%	2	2	100.0%	1	1	100.0%	3	3	100.0%	2	1	100.0%
銅器類	70.0%			--			--			--			--			70.0%			--		

表4 青木東田道路遺物觀察表(2018年度)

演目No	報告No	演題No	種別	形態	時期	色調(内)	色調(外)	絵土	部位	法量			備考
										要素	口径	底径	
第26回	18OHJ01-1	OHJ01-25	陶器	坪	平安	灰白	灰	黒	口縁～胴	—	13.5	—	反動
第26回	18OHJ01-2	OHJ01-47	土師器	坪	平安	にぶい焼	焼	赤・黒・白	胴～底	—	43	—	墨書(文字不明)
第26回	18OHJ01-3	OHJ01-50	造草器	長短瓶	平安	灰白	灰	黒	胴～底	—	75	—	竹付下高台
第26回	18OHJ01-4	OHJ01-52	土師器	壺	平安	灰	増灰	白	胴	—	—	—	内9寸9分目
第26回	18OHJ01-5	OHJ01-51	鉄器										縦3.3cm 横3.5cm 厚4.0cm 重140.8g
第26回	18OHJ01-6	OHJ01-19	土師器	皿	平安	にぶい黄焼～灰黄焼	にぶい黄焼～増灰	白・黒・黄・灰	口縁～底	2.2	12.0	62	内9法焼 ロウ彫刻
第26回	18OHJ01-2	OHJ01-32	土師器	坪	平安	焼	焼	赤・白・黒・黄・灰・赤	口縁～底	2.5	12.5	50	底部外周へ9つ横沟 ロウ彫刻
第26回	18OHJ01-3	OHJ01-75	土師器	坪	平安	黒	焼	赤・白・金	胴～底	—	52	—	内黒 内9法焼
第26回	18OHJ01-4	OHJ01-41	土師器	壺	平安	赤灰～赤焼	赤焼	白・金・赤・黄・金	口縁～胴	—	24.4	—	内9ナナツバ 内9ナナ
第26回	18OHPT06-1	OHPT06-1	青銅	鏡	中世	朝オリーブ灰	朝オリーブ灰～にぶい黄焼	黒	胴	—	—	—	内9ナナツバ 銅安置系 二次的に磨きをかけた(表面は磨き)
第26回	18OH1-1	調査区1～居	土師器	かわらけ	中世	黄焼	黄焼	金・黒・白・赤	口縁～居	2.5	10.4	34	ロウ彫刻 底部迄彫糸状痕
第26回	18OH1-2	調査区1～居	白磁	小皿	中世	灰白	灰白	黒	口縁～胴	—	8.4	—	内9口縁削り
第26回	18OH1-3	調査区1～居	陶器	子皿	中世	黄焼	黄焼	黒・白・赤	胴	—	—	—	大蓋
第27回	18OH1-4	OH1-152	安山石	石臼									縦32.6cm 厚10.2cm重1,000g
第27回	18OHJ01-1	OHJ01-6	土師器	坪	平安	焼	焼	白・黒・赤	口縁～底	5.0	13.0	33	ロウ彫刻 (内へ9割削)
第27回	18OHJ01-2	OHJ01-38	土師器	皿	平安	焼	焼	白・赤	口縁～底	1.8	13.0	80	内9割～底に手持ちへ9割削
第27回	18OHJ01-3	OHJ01-47	陶器	坪	平安	黄焼	黄焼	黒	口縁～底	—	20.0	—	反動
第27回	18OHJ01-4	OHJ01-52	土師器	壺・釜	衛生	にぶい焼	焼	黒・白・赤	胴	—	—	—	内9ナナツバ 内9ナナ
第27回	18OHJ01-5	OHJ01-42焼	土師器	壺・釜	古墳～平安	焼	焼	白・黄・灰・黒	口縁～底	—	14.0	—	内9ナナナナ
第27回	18OHJ01PT1-1	OHJ01PT1-1	土師器	器台	古墳前期	焼	焼	白・赤・黒	口縁～胴	8.2	10.2	140	壺唇部に9丸 胴部に3丸 胴部内周側に9丸 底部中央部に25ヶ所
第27回	18OHJ01-2	OHJ01-32	土師器	釜	古墳	にぶい黄焼～灰黄焼	増黄焼	白・赤・黒・赤	胴～底	—	—	—	外9ナナツバ目隠整後ナナ (内9割削、表面)
第27回	18OHJ01-2	OHJ01-30	5手埴	古焼	古焼	増焼～増	増焼～増	白・黒・赤・黄・金	口～底	—	32.2	—	内9ナナツバハツ目 (内9ナナ)
第27回	18OHJ01-3	OHJ01-35	土師器	ヒメチヤブ	古墳	にぶい黄焼～黄焼	にぶい黄焼～黒焼	黒・白・赤	口縁～底	5.5	4.5	32	手持ち
第27回	18OHJ01-4	OHJ01-25	土師器	ヒメチヤブ	古墳	にぶい焼	焼	白・黒・赤・黄・灰・赤	底	—	—	—	手持ち
第27回	18OHJ01-5	OHJ01-4	土師器	植	古墳	朝黄焼	黄焼	白・赤・黄・灰・赤	胴～底	—	63	—	外9割×9ツバ目隠整後ナナ (内9割削、表面)
第27回	18OHJ01-6	OHJ01-8	衛生	衛生	衛生	灰黄焼～黄焼	にぶい焼～黒焼	黄・灰・白・金	胴	—	—	—	朝黄焼・灰文
第27回	18OHJ01-7	OHJ01-15	土師器	坪	平安	増～黄焼	増	黒・白	口縁～底	2.2	11.0	63	ロウ彫刻 (内9割削へ9割削)
第27回	18OHJ01-8	OHJ01-43.64	土師器	七輪鉢	平安～中世	増焼	焼	金・白	口縁	—	34.0	—	
第27回	18OHJ021-1	OHJ021-4	土師器	内瓦	中世	にぶい黄焼	にぶい黄焼	黄・灰・白	衛生	—	—	—	
第27回	18OH1-1	OH1-2	衛生	壺	衛生	黄焼	焼	金・白・黒	胴	—	—	—	朝黄焼・灰文

表5 青木堂田道跡遺物観察表(2019年度)

品名	報告名	薬物名	種類	原形	時期	色紙(内)	色紙(外)	胎土	部位	法量		備考
										数量	内容	
第22回	19OHJLJ-1	CHJLJ-17	土師器	碗	平安	黒	黒→に灰(焼)	黒・白・金	口縁→体	—	14.7	内底 褐色、ヒビキあり 胴下半へ灰附り
第23回	19OHJLJ-2	CHJLJ-7、7-底	土師器	碗	平安	焼	焼	赤・黒・白	口縁→体	—	15.5	口内黒彩
第24回	19OHJLJ-3	CHJLJ-2	土師器	鉢・蓋	平安	新赤焼	赤焼	黒・白・金	口縁→胴	—	14.5	内底・ハケ目 外底・ハケ目
第25回	19OHJLJ-4	CHJLJ-6、13等	土師器	碗	平安	灰白	灰白	黒・白・赤	口縁→底	5.6	16.3	口内黒彩、難付り跡付 高台付
第26回	19OHJLJ-5	CHJLJ-22,24	土師器	鉢	平安	新赤焼→に灰(焼)	新赤焼→に灰(焼)	黒・灰・白・金	口縁→	—	28.4	内・外ハケ目
第27回	19OHJLJ-6	CHJLJ-2上	土師器	5手置	古墳	焼→に灰(焼)	焼→に灰(焼)	赤・黒・黄・白	口縁→	—	16.5	内・底・蓋にハケ目 底部除胎土(外)黄彩 口内ハケ目
第28回	19OHJLJ-1	CHJLJ-36	土師器	鉢	平安	に灰(焼)	に灰(焼)	黒・灰・白	口縁→底	4.2	10.6	外底→体下部へ灰附り 口内黒彩
第29回	19OHJLJ-2	CHJLJ-18	土師器	鉢	平安	焼	焼	白・赤・赤	口縁→底	4.2	4.8	外・内ハケ目流し
第30回	19OHJLJ-3	CHJLJ-8	土師器	鉢	平安	焼	焼	赤・白・黒	口縁→底	4.4	11.3	外底→体下部へ灰附り 口内黒彩
第31回	19OHJLJ-4	CHJLJ-23	土師器	皿	平安	焼	焼	赤・白・黒	口縁→底	2.5	11.8	外底→体下部へ灰附り 口内黒彩
第32回	19OHJLJ-5	CHJLJ-43	土師器	鉢	平安	に灰(焼)	焼→に灰(焼)	黒・灰・黄・灰	口縁→底	5.5	13.5	内・外・縦方向に 底部に灰付あり 條文あり
第33回	19OHJLJ-6	CHJLJ-36	土師器	鉢(高台付)	平安	焼灰	焼	黒・灰・白	口縁→底	2.2	6.4	内・底・文あり(不鮮明) 外・黄彩あり 條文あり
第34回	19OHJLJ-7	CHJLJ-11	土師器	鉢?	平安	灰	黒	黒・白・赤	口縁→底	—	8.0	外・底に土曜に付 体下部褐色 外・底に 方目

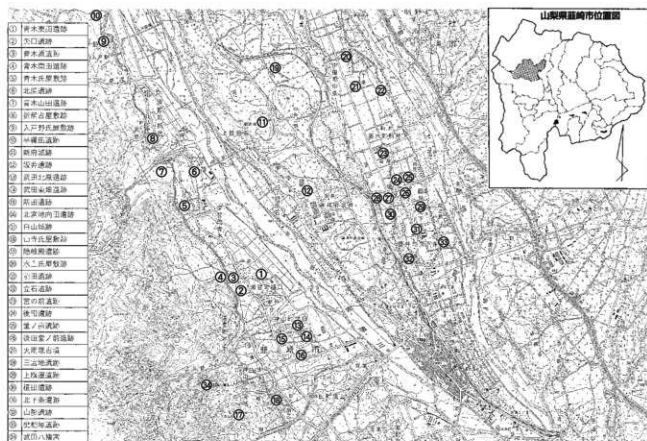
第29回	190HJ2-8	OHJ2-8	陶器	年輪	中世	オリーブ黄	オリーブ黄	白・黄	口縁～体	—	170	—	ロウロ型 赤黒をかけた古瀬戸4 ～大瀬戸
第29回	190HJ2-9	OHJ2-9	土師器	かわらけ	中世	にがい黄緑～緑黄	灰黄緑～黄緑	赤・白	口縁～底	1.7	85	8.0	ロウロ型
第29回	190HJ2-10	OHJ2-10	土師器	かわらけ	中世	にがい黄	にがい黄	赤・白	底	—	110	—	ロウロ型
第29回	190HJ2-11	OHJ2-11	土師器	かわらけ	中世	にがい黄	灰黄	赤・白・黒	口縁	—	115	—	ロウロ型
第29回	190HJ2-12	OHJ2-12	土師器	かわらけ	中世	にがい黄	黒	赤・白	底	—	85	—	底部回転成形
第29回	190HJ2-15	OHJ2-15(1)	古銭	通来銭(国)	北室(107年)								元光通宝 径2.4cm 厚0.01 重3.3g
第29回	190HJ2-16	OHJ2-16(2)	古銭	通来銭(国)	朝(140年)								永享通宝 径2.5cm 厚0.1cm 重3.2g
第29回	190HJ2M-9	OHJ2M9	土師器	坪	平安	黄～にがい黄	黄～にがい黄	赤・白・黒	口縁～底	2.3	125	5.6	ロウロ型 (内へうすり 底部回転成形 多少のけりあり)
第29回	190HJ2M-14	OHJ2M14	土師器	坪	平安	黄～黄緑灰	浅黄緑～黄緑	白・赤	口縁～底	5.8	172	8.8	ナズ
第29回	190HJ2M-17	OHJ2M-42	古銭	通来銭(国)									〇〇通宝 径2.5cm 厚0.3cm 重9.4g 3枚 持ち
第29回	190HJ2M-18	OHJ2M-50	土師器	坪	平安	黄	黄	赤・黒・白	口～底	2.8	132	5.2	ロウロ型 (内へうすり 底部回転成形 多少のけりあり)
第30回	190HJ2M-19	OHJ2M41	土師器	壺	平安	にがい黄	にがい黄	赤・黄・白	口縁～側	—	250	—	内へうすり (内へうすり 底部回転成形)
第30回	190HJ2M-20	OHJ2-33	土師器	壺	平安	黄～黄赤褐	黄～黄赤褐	黒・黄・白・赤	口縁	—	244	—	内へうすり (内へうすり 底部回転成形)
第30回	190HJ2M-21	OHJ2M-14	土師器	壺	平安	黄～黄赤褐	黄～黄赤褐	赤・白・黄	口縁～側	—	250	—	内へうすり (内へうすり 底部回転成形)
第30回	190HJ2M-22	OHJ2M-1	土師器	壺	平安	灰黄	黄～灰黄	赤・黄・白・赤	口～底	—	89	—	内へうすり (内へうすり 底部回転成形)
第30回	190HJ2M-23	OHJ2M-10	土師器	内耳	中世	黄緑～黄	黄	赤・白・赤	口縁	—	302	—	ロウロ型 ナズ 指留
第31回	190HJ2-1	OHJ2-11	土師器	かわらけ	中世	にがい黄～黒褐	黄～黒	赤・赤・白	口縁～底	1.6	75	5.0	底部回転成形 ロウロ型
第31回	190HJ2-2	OHJ2-12	土師器	かわらけ	中世	黄	黄	赤・黒・白	口縁～底	2.5	120	6.5	底部回転成形 ロウロ型
第31回	190HJ2-3	OHJ2-12	土師器	かわらけ	中世	浅黄緑	浅黄緑	赤・黄	口縁～底	2.5	122	6.3	底部回転成形 ロウロ型 ナズ
第31回	190HJ2-4	OHJ2-1	古銭	通来銭(国)	朝(140年)								永享通宝 径2.5cm 厚0.1cm 重2.8g
第31回	190HJ2-5	OHJ2-7	古銭	通来銭(国)									銘無平利 径2.3cm 厚0.01 重2.8g
第31回	190HJ2-6	OHJ2-6	土師器	かわらけ	中世	黄	黄	赤・黒・白	体～底	—	5.0	—	底部回転成形 ロウロ型
第31回	190HJ2-7	OHJ2-10	土師器	かわらけ	中世	黒褐	黒褐	白・黄	体～底	—	4.0	—	底部回転成形
第31回	190HJ2-8	OHJ2-7	土師器	かわらけ	中世	黄	黄	白・黒	体～底	—	7.5	—	底部回転成形 ロウロ型
第31回	190HJ2-9	OHJ2-3	瓦葺土器	浅鉢か鍋	中世	灰黄	灰黄	赤・白	口縁	—	298	—	ロウロ型 口唇部縁ナズ 底部回転成形 ナズ部へうすり
第31回	190HJ2-10	OHJ2-1	陶器	平鉢?	江戸?	浅黄	浅黄	赤・白	底～黄	—	5.0	—	古瀬戸 輪文・灰・オリーブ
第31回	190HJ2-11	OHJ2-4	古銭	通来銭(国)	北室(107年)								元光通宝 径2.4cm 厚0.1cm 重2.4g 一部欠損
第31回	190HJ2-12	OHJ2-14	土師器	かわらけ	中世	黄	黄	赤・白・黄	口縁～底	1.0	135	7.0	底部回転成形 ロウロ型
第31回	190HJ2-13	OHJ2-15	土師器	かわらけ	中世	にがい黄	にがい黄	赤・白・黄・赤	口縁～底	1.9	80	4.0	底部回転成形 ロウロ型 ナズ
第31回	190HJ2-14	OHJ2-6	土師器	かわらけ	中世	黄	黄	赤・白	体～底	—	6.5	—	底部回転成形 ロウロ型
第32回	190HJ2-5	OHJ2-1	瓦葺土器	鍋か鉢	中世	黄緑	灰黄	赤・白・黄・赤	体	—	—	—	内へうすり ナズ
第32回	190HJ2-6	OHJ2-1	白磁	碗?	中世	灰白	灰白	黄	体	—	—	—	内へうすり(内へうすり 底部回転成形)
第32回	190HJ2-7	OHJ2-4	土師器	片口鉢	中世	黄	黄	赤・白・黄	口縁	—	260	—	外へうすり
第32回	190HJ2-8	OHJ2-11	古銭	通来銭(国)	北室(107年)								天長通宝 径2.4cm 厚0.1cm 重3.2g 一部欠損
第32回	190HJ2-9	OHJ2-12	古銭	通来銭(国)	南室(109年)								寛弘元宝 径2.4cm 厚0.1cm 重2.4g
第32回	190HJ2-10	OHJ2-12	古銭	通来銭(国)	北室(107年)								順平元宝 径2.4cm 厚0.1cm 重1.8g
第32回	190HJ2M-1	OHJ2M-4(1)	土師器	高所	古墳	黄	黄	赤・黄・白	口縁～側	—	138	—	坪部内へうすり 底部回転成形ナズ 底部回転成形ナズ 3箇所(内へうすり) ロウロ型
第32回	190HJ2M-2	OHJ2M-12	土師器	坪	平安	黄	黄	赤・白・黄	口縁～底	3.6	139	5.6	内へうすり (内へうすり 底部回転成形)
第32回	190HJ2M-3	OHJ2M-11	土師器	鍋	平安	黄～にがい黄	黄～にがい黄	赤・赤・白	口縁～底	4.6	138	4.0	内へうすり 底部回転成形
第32回	190HJ2M-4	OHJ2M-4	黄	古墳	にがい黄	にがい黄	赤・白・黄・黄	黄	—	—	—	—	内へうすり (内へうすり 底部回転成形)
第32回	190HJ2M-5	OHJ2M-9	古銭	通来銭(国)	朝(130年)								清和通宝 径2.4cm 厚0.15cm 重2.4g
第32回	190HJ2M-1	OHJ2M-1	土師器	かわらけ	中世	黄	黄	白・黄	口縁～体	—	140	—	ロウロ型
第32回	190HJ2M-2	OHJ2M-1	土師器	かわらけ	中世	黄	黄	白・黄・黄	口縁	—	150	—	ロウロ型
第33回	190HJ2M-3	OHJ2M-2	安山岩	石臼									410kg 極めて強いすり潰
第33回	190HJ2M-4	OHJ2M-2	安山岩	すり臼									径4.7cm 径3.9cm 厚3.8cm 重1.5kg スリノ 溝穴
第33回	190HJ2M-5	OHJ2M-1	土師器	かわらけ	中世	浅黄緑	浅黄緑	白・黄・赤	口縁～底	2.8	133	6.0	ロウロ型 底部回転成形
第33回	190HJ2M-6	OHJ2M-1	黄	中世	にがい黄	にがい黄	白・黄・赤	黄	—	—	—	—	
第33回	190HJ2M-7	OHJ2M-1	安山岩	石臼?	中世?								径15.5cm 径16.0cm 厚10.0cm 重4.00kg
第33回	190HJ2M-8	OHJ2M-2	土師器	かわらけ	中世	黄	黄～にがい黄	赤・赤・白・赤	体～底	—	—	8.7	ロウロ型 底部回転成形
第33回	190HJ2M-9	OHJ2M-1	土師器	鍋	中世	にがい黄	にがい黄	白・黄・赤・赤	口縁	—	38	—	内へうすり

第33回	19OH1PT-12-1	OH1PT-12-1	古銭	漢楽(漢)								刃切並利により時間不揃
第33回	19OH1KRD-1	OH1KRD-4	土師器	かわらけ	中世	黄焼	黄焼	赤・金・黒・白	口縁～底	—	8.8	クワロナナ 底部厚減により不揃形
第33回	19OH1-1	OH1-70	弥生	鉢	弥生	赤赤焼	赤赤焼	白・黒	口縁～底	—	23.9	(内・外注付) 赤部
第33回	19OH1-2	OH1-143L	弥生	釜	弥生	赤赤焼	赤赤焼	白・黒	口縁～底	—	—	横線・土質による波状文・土片等
第33回	19OH1-3	OH1-71,74焼	弥生	釜	弥生	赤赤焼	赤赤焼	白・黒	口縁～底	—	30.0	6.8 横線・土質による波状文
第34回	19OH1-4	OH1-94.95	土師器	埴	古墳	黒焼～に似て黄焼	黄赤焼	白・黒	口縁～底	8.7	16.4	4.0 ハウチ一辺方
第34回	19OH1-5	OH165-一器	陶器	皿か碗	平安	灰黄	灰黄	黒	高台	—	10.2	反脱 ロウ口型形
第34回	19OH1-6	OH1-55	土師器	坪	平安	焼	焼	赤・金・黒・白	口縁～底	2.5	13.5	底部回転痕あり
第34回	19OH1-7	OH1-121	土師器	かわらけ	中世	黄焼	黄焼	白・金	口縁～底	5.5	10.0	2.4
第34回	19OH1-8	OH164-一器	土師器	かわらけ	中世	灰黄焼～暗灰	暗灰	黒・金	口縁～底	2.7	10.6	5.2 底部回転痕あり クワ口型一辺方
第34回	19OH1-9	OH164-一器	土師器	灯篭蓋?	中世	焼	焼	白・黒・金	口縁～底	2.1	11.0	6.0 内面黒色化
第34回	19OH1-10	OH1-45.48	土師器	坪	平安	焼	焼	白・黒・金・赤	口縁～底	3.0	12.5	6.5 底部回転痕あり
第34回	19OH1-11	OH1-96,101	土師器	かわらけ	中世	黄赤焼	白に似て焼	白・黒・赤	口縁～底	—	12.8	—
第34回	19OH1-12	OH1-110	土師器	かわらけ	中世	黄赤焼	黄赤焼	赤・白・金	口縁～底	2.4	11.8	6.0 底部回転痕あり クワ口型一辺方
第34回	19OH1-13	OH1-87	灰胎	花瓶	中世	に似て黄焼	に似て黄焼	白・黒・赤	口縁～底	—	10.4	—
第34回	19OH1-14	OH1-117	土師器	香炉	中世	に似て黄焼	黄赤焼	黒・金・白	口縁～底	—	10.0	—
第34回	19OH1-15	OH165-一器	陶器	香炉	中世	灰白～暗赤焼	暗赤焼～灰白	白・黒	口縁～底	—	11.5	古窯戸(大) (外)口部熱火痕
第34回	19OH1-16	OH1-65	灰胎	碗	中世	黄赤	黄赤	白・黒	底	—	—	大窯
第34回	19OH1-17	OH165-一器	陶器	片口鉢	中世	灰黄	灰黄	黒・白・赤	底	—	10.0	古窯戸
第34回	19OH1-18	OH1-一器	陶器	高入鉢	中世	焼	焼一燈焼	白・黒	底	—	7.0	古窯戸(大) (内)内付ナナ 鉄動
第34回	19OH1-19	OH1-102	土師器	こね鉢	中世	赤赤焼	焼灰～黄焼	白・黒・金	口縁	—	—	—
第34回	19OH1-20	OH104-一器	土師器	こね鉢	中世	黄焼	赤赤焼	黒・金・赤・白	口縁	—	30.0	—
第34回	19OH1-21	OH1UK6-一器	常滑	鉢	中世	に似て黄焼	に似て黄焼	白・黒	肩	—	—	—
第34回	19OH1-22	OH1UK6-一器	土師器	大鉢	中世	黄一焼	焼一黄焼	金・黒・白	口縁	—	—	—
第34回	19OH1-23	OH104-一器	瓦葺土	瓦葺ナ?	中世	灰	灰	白・黒・黄・赤	口縁～底	—	31.8	—
第34回	19OH1-24	OH1F5-一器	常滑	釜	中世	灰焼	に似て赤焼	白・黒・赤	肩	—	—	—
第34回	19OH1-25	OH1-87	陶器	受付付盆	中世	灰白	灰白	白・黒	口縁～底	—	12.0	—
第34回	19OH1-26	OH1-一器	陶器	鉢	中世	オリーブ黄	に似て黄赤焼	赤・黒・白	高台	—	—	5.0 灰白黄赤 底部黒色部黒黄赤に似て黄赤付盆
第34回	19OH1-27	OH1-63	弥生	赤白								横10.0cm 縦12.0cm 重1.44kg
第34回	19OH1-28	OH1-11	安山岩	砂・スリ石								横14.3cm 縦11.2cm 厚6.6cm 重15.93kg
第34回	19OH1-29	OH1-25	弥生	スリ石								横12.5cm 縦7.0

第37回	190HJ.02-6	CHJ.02-113	土師器	押	平安	黒	灰白	黒・白・赤	口縁～底	5.0	123	5.7	内裏 底面回転糸切痕
第37回	190HJ.02-7	CHJ.02-120	土師器	押	平安	浅黄褐色	緑	赤・黒・白	口縁～底	5.7	174	9.5	口内成形 底面回転糸切痕
第37回	190HJ.02-8	CHJ.02-122	反動	巻	平安	灰黄	にがい黄	黒・白	底	—	—	—	口内成形
第37回	190HJ.02-9	CHJ.02-113	土師器	巻	平安	にがい赤褐色	にがい赤褐色・赤黄	白・黒・赤・黄光	口縁～底	—	374	—	内環ハク (内環ハク)
第38回	190HJ.02-10	CHJ.02-112	土師器	内耳	平安	緑	緑	白・黒・赤	口縁～底	—	110	123	内ハナナナ
第38回	190HJ.02-11	CHJ.02-40	土師器	鉢	平安	明赤褐色	明赤褐色	黒・白・赤・黄光	底～底	—	—	8.5	内環ハク (内環ハク) 底 底面へう張り 木炭痕
第38回	190HJ.02-12	CHJ.02-21.73	反動	四耳垂	平安	灰黄	灰黄	白・黒	底	—	—	—	
第38回	190HJ.02-13	CHJ.02-32	反動	巻	平安	灰黄	灰黄	白・黒・赤	底	—	—	—	
第38回	190HJ.02-1	CHJ.02-81	土師器	内耳	平安	にがい黄～緑	明緑	黒・白・赤・黄光・赤	内耳	—	—	—	
第38回	190HJ.02-2	CHJ.02-80	土師器	かわらけ	平安	緑	緑	黒・白・赤	口縁～底	1.9	91	5.0	口縁部底面取付 ハナナ 底面回転糸切痕 (内環ナナ)
第38回	190HJ.02-3	CHJ.02-22-1	土師器	かわらけ	平安	にがい黄	にがい黄	黒・白・赤	口縁～底	1.8	78	4.4	
第38回	190HJ.02-4	CHJ.02-22	土師器	かわらけ	平安	緑	浅黄褐色	赤・黒・白	口縁～底	2.5	110	8.0	底面回転糸切痕
第38回	190HJ.02-5	CHJ.02-71	土師器	かわらけ	平安	緑	黄褐色	赤・黒・白	口縁～底	2.3	104	5.3	底面回転糸切痕
第38回	190HJ.02-6	CHJ.02-113	土師器	かわらけ	平安	浅黄褐色	浅緑	赤・黒・白	口縁～底	1.7	72	4.2	底面回転糸切痕
第38回	190HJ.02-7	CHJ.02-69	土師器	かわらけ	平安	浅黄褐色	浅黄褐色	赤・白・赤	口縁	—	118	—	
第38回	190HJ.02-8	CHJ.02-81.1	土師器	かわらけ	平安	緑	緑	赤・黒・白	口縁～底	2.2	108	8.0	底面回転糸切痕
第38回	190HJ.02-9	CHJ.02-113	土師器	かわらけ	平安	明緑褐色	にがい黄	黒・赤・赤・白	口縁	—	124	—	口内ナナ
第38回	190HJ.02-10	CHJ.02-45	土師器	かわらけ	平安	緑	にがい黄	黒・白・黄光・赤・赤	口縁～底	2.0	94	4.3	底面2箇所取付 てづくね
第38回	190HJ.02-11	CHJ.02-26	土師器	かわらけ	平安	黄褐色	黄褐色	赤・白	口縁～底	2.6	135	7.0	底面回転糸切痕
第38回	190HJ.02-12	CHJ.02-59	土師器	かわらけ	平安	にがい黄褐色	にがい黄褐色	赤・白	底	—	—	4.0	底面回転糸切痕
第38回	190HJ.02-13	CHJ.02-13-1	土師器	かわらけ	平安	にがい黄褐色	にがい黄褐色	赤・白	口縁～底	2.8	123	6.8	底面回転糸切痕
第38回	190HJ.02-14	CHJ.02-87	土師器	かわらけ	平安	にがい黄褐色	にがい黄褐色	赤・黒・白	底	—	—	3.6	底面回転糸切痕
第38回	190HJ.02-15	CHJ.02-1924	土師器	かわらけ	平安	にがい黄褐色	にがい黄褐色	赤・白	口縁～底	2.6	133	—	口縁部底面取付
第38回	190HJ.02-16	CHJ.02-113	土師器	かわらけ	平安	浅緑	浅緑	白・赤・赤	底	—	—	3.8	底面回転糸切痕
第38回	190HJ.02-17	CHJ.02-12	土師器	かわらけ	平安	にがい黄褐色	にがい黄褐色	黒・赤・白	底	—	—	—	底面回転糸切痕
第38回	190HJ.02-18	CHJ.02-56	土師器	かわらけ	平安	にがい黄褐色～反焼	浅黄褐色	黒・赤・白	底	—	—	3.4	内ハナナ 底面回転糸切痕
第38回	190HJ.02-19	CHJ.02-113	土師器	スリ鉢	平安	緑	緑	赤・白・赤	底	—	—	—	
第38回	190HJ.02-20	CHJ.02-63	土師器	スリ鉢	平安	緑	浅黄褐色	白・赤・黒	底	—	—	—	外環底面
第38回	190HJ.02-21	CHJ.02-75	土師器	内耳	平安	緑	緑	黒・白・黄光	口縁	—	225	—	口内ナナ
第38回	190HJ.02-22	CHJ.02-113	土師器	スリ鉢	平安	にがい黄褐色	にがい黄褐色	黒・赤・赤	底	—	—	—	内環底面
第38回	190HJ.02-23	CHJ.02-113	土師器	鉢	平安	明黄褐色	明黄褐色～暗緑	赤	底	—	—	—	型製成形 (内環ハナナ 付着物あり)
第38回	190HJ.02-24	CHJ.02-113	土師器	内耳	平安	黄褐色	緑～明緑	黒・赤・黄光	口縁～底	—	242	—	口内ナナ 底面底
第40回	190HJ.02-25	CHJ.02-29	土師器	内耳	平安	にがい黄褐色～黒	にがい黄褐色～黒	白・赤	口縁～底	—	280	—	口内ナナ (内環底面) (外環付着)
第40回	190HJ.02-26	CHJ.02-15	土師器	内耳	平安	にがい黄褐色	暗緑～暗赤褐色	黒・白・赤・黄光	口縁	—	284	—	口内ナナ 底面底
第40回	190HJ.02-27	CHJ.02-26	土師器	内耳	平安	にがい黄褐色	黒褐色～暗緑	黒・白・赤・黄光	口縁	—	288	—	口内ナナ 底面底
第40回	190HJ.02-28	CHJ.02-2	土師器	内耳	平安	緑	緑～暗緑	黒・白	口縁	—	275	—	口内ナナ
第40回	190HJ.02-29	CHJ.02-113	土師器	内耳	平安	明緑褐色～にがい黄褐色	黒褐色	黒・白・赤・赤	底	—	—	—	ナナ 底面底
第40回	190HJ.02-30	CHJ.02-113	土師器	天目茶碗	平安	黒褐色	黒褐色	黒・赤	口縁	—	110	—	古瀬戸(大室) 2次のなな底あり
第40回	190HJ.02-31	CHJ.02-113	土師器	天目茶碗	平安	黒褐色	黒褐色	黒・赤	口縁～底	—	110	—	古瀬戸(大室)
第40回	190HJ.02-32	CHJ.02-38.60	土師器	天目茶碗	平安	黒褐色	黒褐色	黒・赤	口縁	—	110	—	古瀬戸(大室)
第40回	190HJ.02-33	CHJ.02-31	青磁	鉢	平安	オリブ灰	オリブ灰	黒	口縁～底	—	—	—	龍泉窯系 E4型
第40回	190HJ.02-34	CHJ.02-32	青磁	鉢	平安	オリブ灰	オリブ灰	赤	口縁～底	—	—	—	龍泉窯系 E4型
第40回	190HJ.02-35	CHJ.02-33	青磁	鉢	平安	オリブ灰	オリブ灰・黄褐色	赤・黒	底	—	—	—	龍泉窯系 E4型
第40回	190HJ.02-36	CHJ.02-58	緑 青口	土師器	平安	にがい黄褐色～反焼	暗緑～黒褐色	白・黒	底	—	—	—	
第40回	190HJ.02-37	CHJ.02-91	緑 青口	土師器	平安	黒赤褐色～赤褐色	暗赤褐色～暗緑褐色	白	底	—	—	—	砂鉢を含む ガラス質の底面取付 緑分を含む 底面取付付着
第40回	190HJ.02-38	CHJ.02-50	緑 青口	土師器	平安	にがい黄褐色～反焼	暗緑～黒褐色	白・黒	底	—	—	—	砂鉢を含む ガラス質の底面取付 緑分を含む 底面取付付着
第41回	190HJ.02-39	CHJ.02-26-42	陶器	徳利	平安	灰白	灰白 暗オリブ灰～暗緑	黒・白	口縁～底	26.0	138	17.0	口内
第41回	190HJ.02-40	CHJ.02-42	鉄製品	鉄斧	平安?								重18.8g
第41回	190HJ.02-41	CHJ.02-44	鉄製品	鉄斧	平安?								重17.7g
第41回	190HJ.02-42	CHJ.02-95	鉄製品	硬鉄線	平安?								重102.6g

第41品	19QZJ03-43	CHZJ03-45	鉄製品	鉄棒	中容?					—	—	—	量78kg
第41品	19QZJ04-1	CHZJ04-81.63	土師器	杯	平安	朝霞焼	朝霞焼	赤・黒	口縁～底	4.0	108	4.8	口の凹部へへう削り
第41品	19QZJ04-2	CHZJ04-96	土師器	杯	平安	埴	埴	赤・黒	口縁～底	4.1	110	5.0	口の凹部へへう削り
第41品	19QZJ04-3	CHZJ04-92	土師器	杯	平安	埴	埴	赤・黒	口縁～底	4.1	118	2.4	口の凹部へへう削り
第41品	19QZJ04-4	CHZJ04-2425	土師器	杯	平安	にいがい黄焼	埴へにいがい黄焼	赤・黒	口縁～底	4.0	118	5.8	口の凹部、底部回転糸切痕あり
第41品	19QZJ04-5	CHZJ04-2	土師器	杯	平安	灰緑～朝霞灰	埴～灰焼	黒・赤	口縁～底	4.2	112	4.8	口の凹部へへう削り
第41品	19QZJ04-6	CHZJ04-2647	土師器	杯	平安	黄焼	にいがい黄焼～黄焼	赤・黒・白	口縁～底	3.8	120	5.0	口の凹部へへう削り・半円肉底流線
第41品	19QZJ04-7	CHZJ04-51	土師器	杯	平安	埴	埴	赤・白・黒	口縁～底	—	138	—	口の凹部
第41品	19QZJ04-8	CHZJ04-22	土師器	杯	平安	にいがい黄焼～埴	流黄焼	赤・黒	口縁～底	4.0	118	5.0	口の凹部
第41品	19QZJ04-9	CHZJ04-32	土師器	杯	平安	黄焼	黄焼	赤・黒	口縁～底	5.0	152	6.8	口の凹部、底部回転糸切痕あり
第41品	19QZJ04-10	CHZJ04-50	土師器	杯	平安	埴	埴	赤・黒・白	口縁～底	2.8	138	4.8	口の凹部
第41品	19QZJ04-11	CHZJ04-46	土師器	碗	平安	黒	にいがい赤焼	黒・白・赤	底～底	—	—	7.0	口の凹部、内面高台
第41品	19QZJ04-12	CHZJ04-11-低	土師器	碗	平安	黒焼	埴	白・赤	口～底	6.0	170	6.8	口の凹部、底部回転糸切痕あり
第41品	19QZJ04-13	CHZJ04-23.30	土師器	杯	平安	埴	流黄	赤・白	口～底	2.8	172	7.8	口の凹部、底部高台付
第42品	19QZJ04-14	CHZJ04-10.15	土師器	蓋	平安	朝赤焼	朝赤焼	赤・黒・白	口～底	—	240	—	内・外へう削り
第42品	19QZJ04-15	CHZJ04-18	陶器	蓋小倉	平安	緑灰黄	灰黄	白・黒	底～底	—	—	13.4	口の凹部、自然釉あり
第42品	19QZJ04-16	CHZJ04-88	土師器	蓋	平安	にいがい赤焼	にいがい赤焼	赤・黒・赤	口縁～底	—	272	—	内・外ハケ目
第42品	19QZJ04-17	CHZJ04-18	土師器	蓋方斗	平安	埴～埴灰	埴	白・赤・黒	底	—	—	—	ナナ
第42品	19QZJ04-18	CHZJ04-1742	土師器	蓋	平安	朝赤焼	朝赤焼	赤・黒・白	口縁～底	—	280	—	内・外ハケ目
第42品	19QZJ04-19	CHZJ04-18	土師器	鉢鉢	平安	黒焼～緑灰黄	黒・赤・白	—	—	—	—	—	鉢4cm 底3cm 蓋面にへうによる点があり
第42品	19QZJ04M-1	CHZJ04M-6	陶器	蓋	平安	朝焼	にいがい焼	赤・赤・白	底	—	—	—	内面にて黄灰あり(外ハケ目 須蓋部の 土削り)
第42品	19QZM23-1	CHZM23-3	土師器	かわらけ	中容	埴	埴	赤・黒・白	口縁～底	2.8	120	4.4	千手kg
第42品	19QZM23-2	CHZM23-1	土師器	火鉢	中容	にいがい焼	にいがい焼	赤・赤・白	口縁	—	280	—	—
第42品	19QZM23-3	CHZM23-6-11	土師器	スリ鉢	中容	にいがい焼	にいがい焼～黒焼	赤・黒・白	底	—	—	—	—
第42品	19QZM23-4	CHZM23-8	土師器	内瓦	中容	灰焼	にいがい焼	黒・白・赤	底～底	—	—	24.0	底部 砂目
第42品	19QZM23-5	CHZM23-13	銅製品	青銅製品									鉄分付 点(穴)れ處がついている痕跡あり
第42品	19QZM23-6	CHZM23-12	銅製品	青銅製品									先端が丸みを帯びる 同一個体の口縁部 が重なってつづいたものか
第42品	19QZM24-1	CHZM24-8	土師器	かわらけ	中容	埴	埴	赤・赤・白	口縁	—	130	—	口の凹部
第42品	19QZM24-2	CHZM24-4	土師器	かわらけ	中容	埴～埴灰	埴～灰焼	赤・赤・白	口縁～底	3.1	135	7.5	口唇部の中面あり
第42品	19QZM24-3	CHZM24-18	土師器	内瓦	中容	埴～黒焼	黄焼～灰焼	白・黒・赤	口縁	—	320	—	口の凹部
第42品	19QZM24-4	CHZM24-18	土師器	鍋 口口	中容	埴～黒焼	埴～黒	白・黒	—	—	—	—	流線長径2.8cm 外径4.8cm 口スリ貫 の取付部付
第42品	19QZM24-5	CHZM24-18	土師器	鍋 口口	中容	埴～にいがい赤焼	にいがい黄焼～埴灰～ 黒	白・黒	—	—	—	—	流線長径2.8cm 外径4.8cm 取付部の付 きあり
第42品	19QZM24-6	CHZM24-18	土師器	蓋口	中容	黒白							量30kg
第42品	19QZM24-7	CHZM24-18	土師器	石臼						11.8	100	15.0	量80kg
第42品	19QZM24-8	CHZM24-18	土師器	灰臼の石						—	280	—	量142kg
第42品	19QZM24-9	CHZM24-18	土師器	灰臼(石)									縦18.3cm 横16.7cm 厚3.8cm 量170kg
第42品	19QZM24-10	CHZM24-18	銅製品	青銅製品									先端部縦径1.5cm 長さ、土付部 量33kg
第42品	19QZM24-11	CHZM24-11	鉄製品	鉄棒									量58.2kg
第42品	19QZM24-12	CHZM24-12	鉄製品	鉄棒									量118.6kg
第42品	19QZM24-13	CHZM24-13	鉄製品	鉄棒									量192kg
第42品	19QZM25-1	CHZM25-1502-3	土師器	かわらけ	中容	埴	埴	赤・白・黒	口縁～底	2.5	128	6.5	底部回転糸切痕あり
第42品	19QZ552-1	CHZ552-2①	土師器	かわらけ	中容	埴	埴	赤・白	口縁～底	—	135	—	口の凹部
第42品	19QZ552-2	CHZ552-5	土師器	スリ石									縦15.0cm 横16.7cm 厚7.4cm 量260kg
第42品	19QZ552-3	CHZ552-4	土師器	スリ石									縦12.7cm 横3.6cm 厚4.8cm 量30kg 全周にスリ溝あり、自然土の付着痕あり
第42品	19QZ553-1	CHZ553-2	土師器	内瓦	中容	黒	にいがい焼～黒焼	白	口縁～底	18.6	348	30.0	内面付蓋物あり
第42品	19QZ553-2	CHZ553-4	陶器	鉢	中容	にいがい黄	にいがい黄	白・黒	口縁	—	120	—	古東戸大蓋
第42品	19QZ553-3	CHZ553-18	土師器	杯	中容	灰焼	にいがい焼	白	口縁～底	—	—	6.5	内面に灰化付蓋物あり 取付部は油が 残った痕跡の可能性あり
第42品	19QZ553-4	CHZ553-18	土師器	かわらけ	中容	埴	埴	赤・白	底	—	—	6.5	底部回転糸切痕あり
第42品	19QZ554-1	CHZ554-1	銅製品	釘									長さ7cm 幅3.3cm 厚1.4cm 量23.3g
第42品	19QZ555-1	CHZ555-1	銅製品	蓋	中容	にいがい黄焼	にいがい黄焼	白・黒	底～底	—	—	10.0	内・外 縁部(外ハケ へう削り) 99 年産

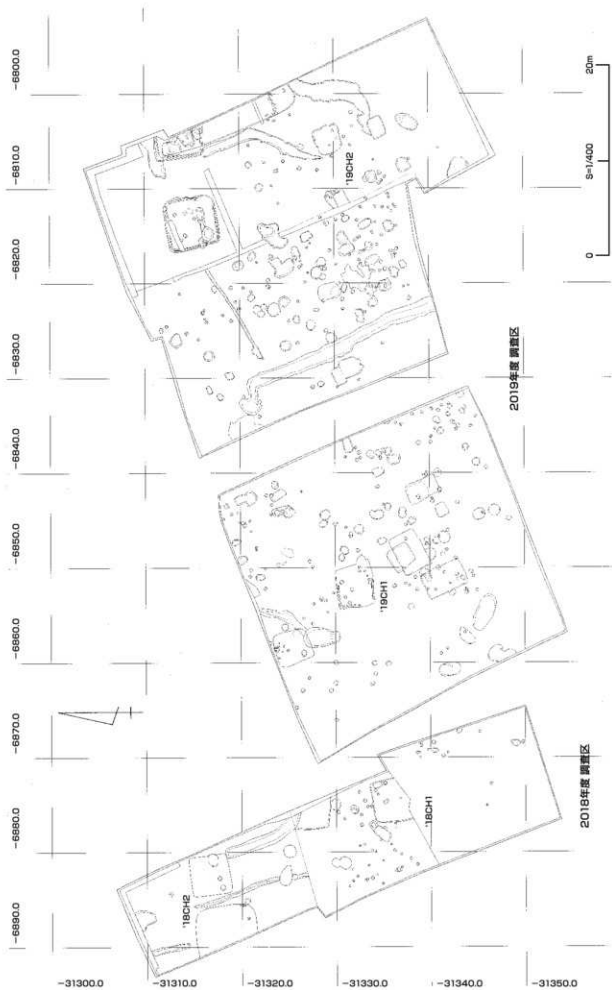
第43品	19QH25084-1	CH25084-1	土師器	不明	中世	に深い黄褐色	に深い黄褐色	白・黒・赤	底	—	—	7.0	内径が平
第43品	19QH25088-1	CH2-18K92-1	土師器	香炉	中世	橙	橙	赤・白・黒	口縁～底	—	—	3.5	口部直下凹線あり
第43品	19QH25088-2	CH2K8-1	土師器	かわらけ	中世	浅黄褐色	浅黄褐色	黒・赤・白	口縁	—	11.0	—	
第43品	19QH25088-3	CH2K8-1	土師器	かわらけ	中世	橙	橙	黒・赤・白・赤	口縁	—	11.0	—	ロウロナデ
第43品	19QH25088-4	CH2K8-1	土師器	かわらけ	中世	橙	浅黄褐色	黒・白・赤・赤	底	—	—	3.8	底面凹線あり 底面 ナデ
第43品	19QH25088-5	CH2K8-5	土師器	鍋?	中世	赤褐色	橙	赤・白・赤	底～底	—	—	14.5	底面凹線あり 底面 底面あり
第43品	19QH25088-6	CH2K8-1	土師器	内耳	中世	に深い黄褐色	黄褐色	黒・赤・白・黒・赤	口縁	—	25.0	—	ナデ
第43品	19QH25088-7	CH2K8-1	土師器	内耳	中世	に深い黄褐色	に深い黄褐色	黒・赤・黒・赤・赤	口縁	—	27.8	—	ロウロナデ
第43品	19QH25088-8	CH2K8-1	土師器	内耳	中世	橙	橙～黒	黒・赤・赤・黒・赤	口縁	—	32.4	—	ロウロナデ
第43品	19QH25088-9	CH2K8-2	土師器	内耳	中世	に深い赤褐色～黒褐色	に深い赤褐色～黒褐色	黒・白・赤・赤	底	—	—	24.8	やや内湾
第43品	19QH25088-10	CH2K8-1	土師器	打	中世								縦3.2cm 横1.8cm
第43品	19QH25088-11	CH2K8-1	土師器	壺	平安	に深い黄褐色	橙	白・黒	口縁	—	23.2	—	内径1.7cm 幅のやや広い口ハケ
第43品	19QH25088-12	CH2K8-2	土師器	小笠原かき	平安	橙	橙	黒・赤・赤	口縁～底	—	14.0	—	ロウロナデ
第43品	19QH25088-13	CH2K8-2	土師器	反動	平安	灰白～灰黄	灰白～明黄褐色	白・黒・赤	底	—	—	8.0	内径が平～スリ底
第43品	19QH2-1	CH2-4	土師器	スリ鉢	中世	橙	橙	赤・白	口縁～底	—	26.0	—	
第43品	19QH2-2	CH2-3	土師器	内耳	中世	に深い黄褐色	に深い黄褐色	黒・赤・白	口縁	—	27.0	—	縁部穴1箇所あり 底ナデ
第43品	19QH2-3	CH2-2	土師器	内耳	中世	橙	に深い黄褐色	白・赤	口縁～底	—	34.0	—	
第43品	19QH2-4	CH2-38	土師器	刀子									長10.1cm 幅3.2cm 厚0.8cm×2.1cm



第1図 青木東田遺跡と周辺の遺跡 (S = 1/50,000)



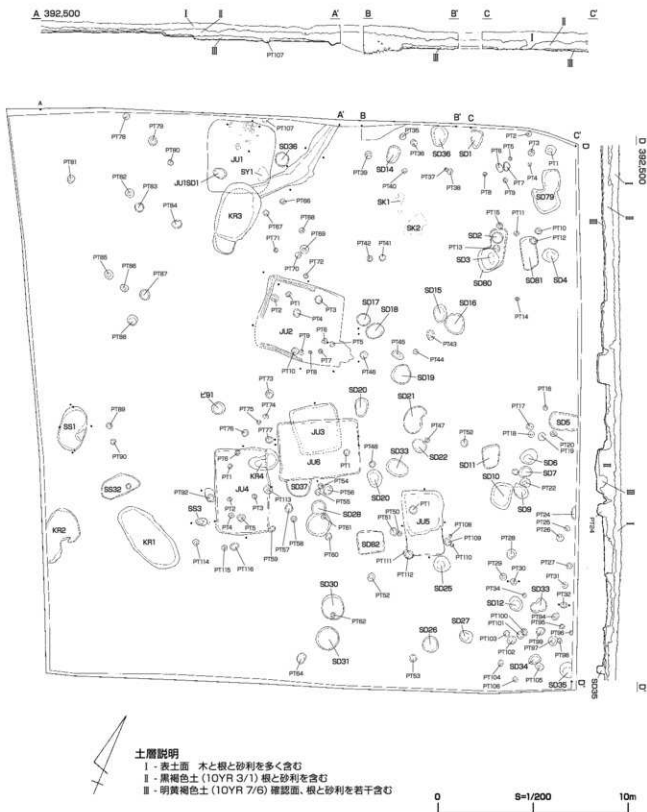
第2図 青木東田遺跡の位置図 (S = 1/5,000)



第3図 青木東田遺跡調査区全体図 (S=1/400)



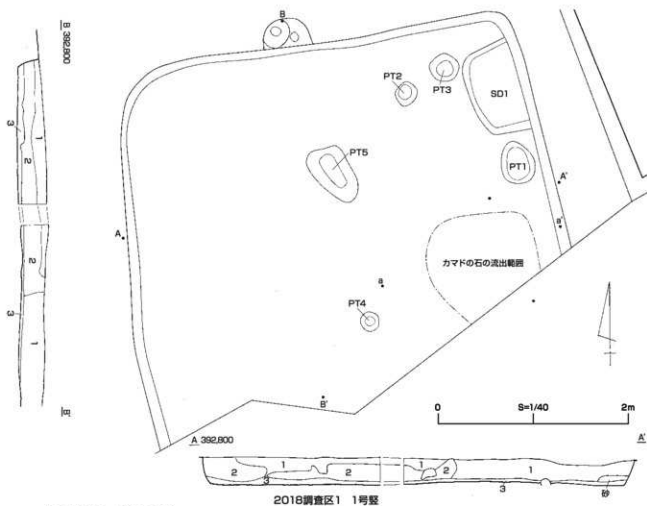
第4図 2018年度 調査区全体図 (S = 1/200)



第5図 2019年度 調査区1 全体図 (S=1/200)



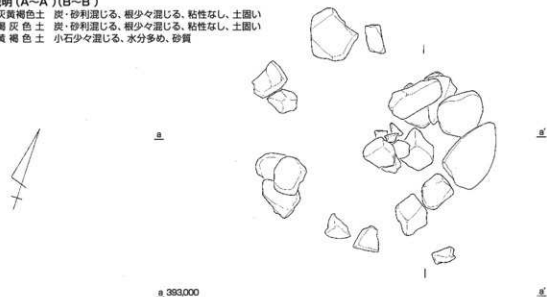
第6図 2019年度 調査区2 全体図 (S=1/200)



2018調査区1 1号壁

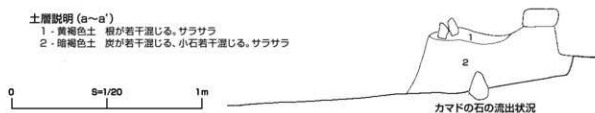
土層説明 (A~A') (B~B')

- 1 - 灰黄褐色土 炭・砂利混じる、概少々湿じる、粘性なし、土固い
- 2 - 褐灰色土 炭・砂利混じる、概少々湿じる、粘性なし、土固い
- 3 - 黄褐色土 小石少々混じる、水分多め、砂質

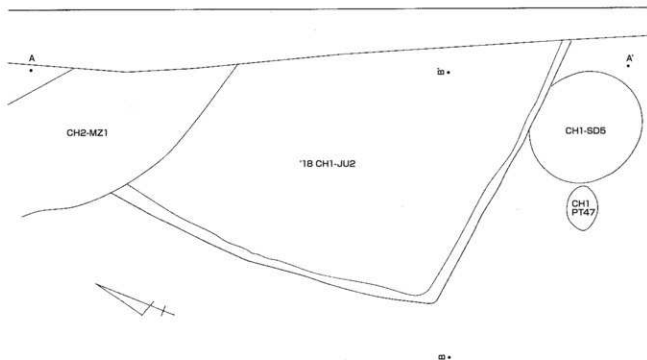


土層説明 (a~a') (b~b')

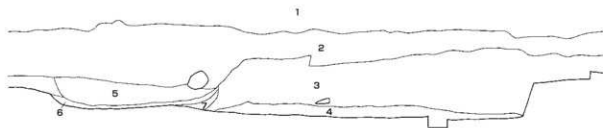
- 1 - 黄褐色土 概が若干湿じる、サラサラ
- 2 - 暗褐色土 炭が若干湿じる、小石若干湿じる、サラサラ



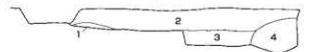
第7図 2018年度 調査区1 1号壁 平・断面図 (S=1/20・1/40)



A 333,200



B 391,100

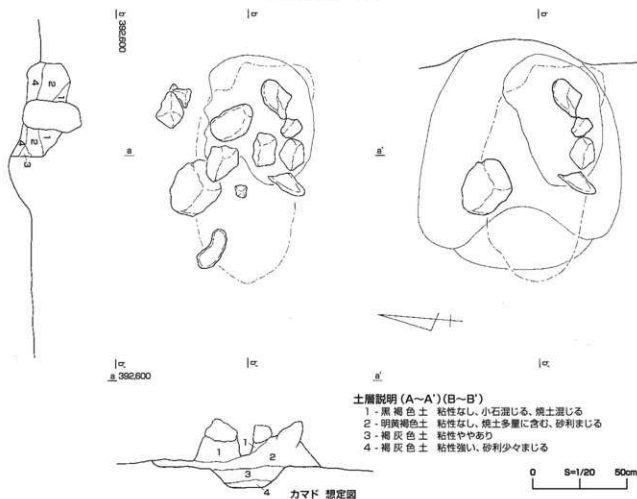
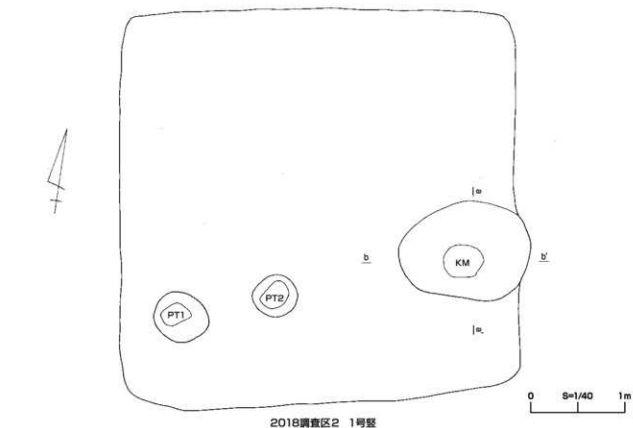


土層説明 (A~A')(B~B')

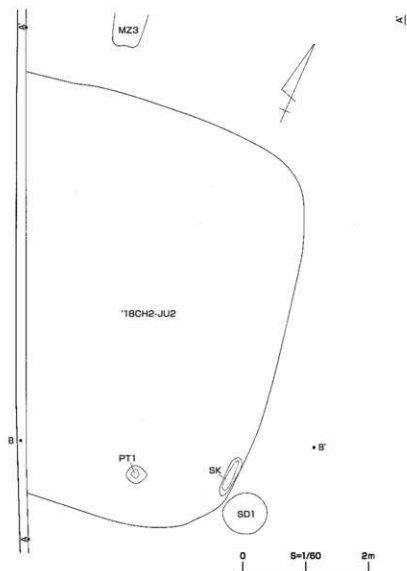
- 1 - 明黄褐色土 根・小石を含む、しまり強
- 2 - 灰白色土 しき・砂利を多量に含む、しまり強、ザラザラ
- 3 - 黒褐色土 砂利を多く含む、炭少々含む、包層
- 4 - 黒褐色土 砂質が混じる、鉄分が部分的にまじる、しまり強
- 5 - 明黄褐色土 粘土質、鉄分を含む (CH2-MZ1の内部に該当)
- 6 - 褐灰色土 鉄分により、やや変色、粘土質、砂利少々含む (CH2-MZ1の底部に該当)
- 7 - 黄褐色土 鉄分により変色、やや粘土質、砂まじり、6層が鉄分を多量に含み変色が

0 S=1/40 2m

第8図 2018年度 調査区1 2号 縦平・断面図 (S=1/40)



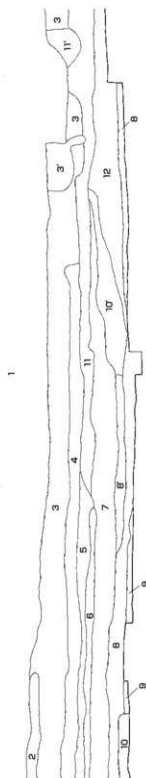
第9図 2018年度 調査区2 1号竖 平・断面図 (S=1/20・1/40)



土層説明 (A~A') (B~B')

- 1 - 褐灰色土 一部にシキ・黄褐色度が混じる。しまり弱 (耕作土)
- 2 - 褐灰色土 小石・根が全体に混じる (砂層)
- 3 - 黒褐色土 砂利を多量に含む、しまり弱
- 3' - 褐灰色土 黄褐色土が一部混じる、黒褐色より黄褐色土の方がしまりやや強
- 4 - 黄褐色土 土層中心部に黒褐色土が混じる、しまりやや弱、ザラザラ (砂層)
- 5 - 黒褐色土 砂利を多量に含む、砂質は3層より砂の成分が強、しまりやや弱、ザラザラ
- 6 - 黄褐色土 砂利を多量に含む、砂質は全土層の中で最も砂の成分が強、しまり弱、ザラザラ
- 7 - 黄褐色土 粘性あり、植物根跡が所々に有り、しまりやや強
- 8 - 褐色土 粘性あり、7層より弱、砂利少々含む、しまり強 (住居覆土)
- 8' - 黒褐色土 一部粘性有り、一部砂利を含む、8層の発色か
- 9 - 黄褐色土 砂利を多く含む、北側に小石を含む、砂利が少ない所に若干の粘性有り (住居床面)
- 10 - 黄褐色土 砂利・小石の流れ込み、10層よりも黒褐色土を多く含む
- 10' - 黒褐色土 砂利混じる、しまり強、一部黄褐色土 (粘性有り) が混じる
- 11' - 黄褐色土 砂利混じる、11層よりも黒色土の成分が強
- 12 - 黄褐色土 粘性有り、砂利混じる、層下部の一部に灰・焼土を含む、住居の関係か

A 393,400

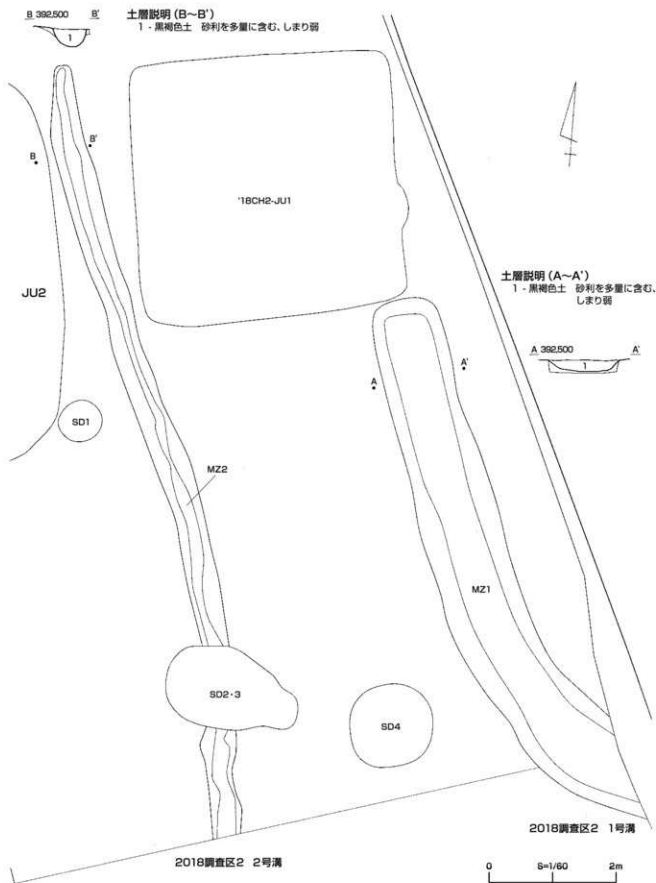


B 393,300

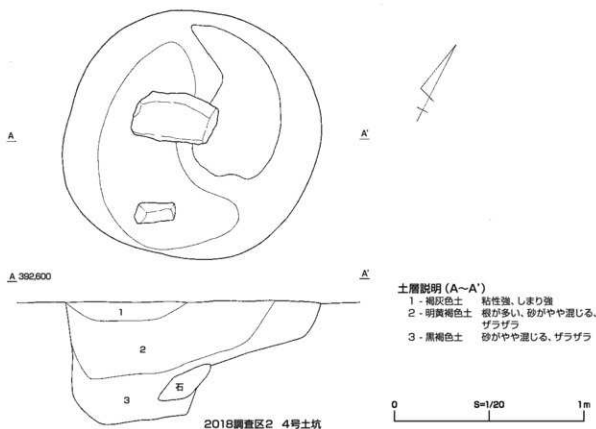
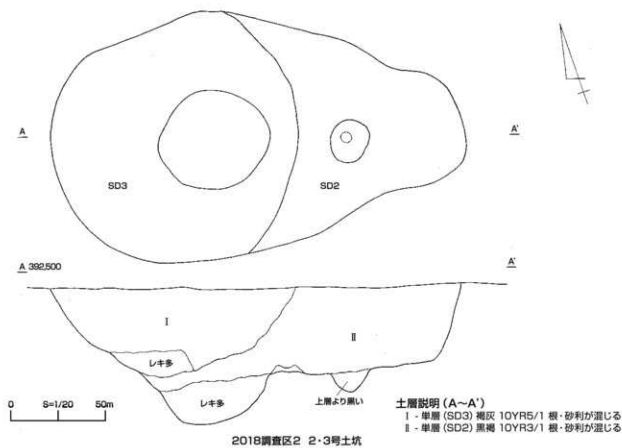


0 S=1/40 1m

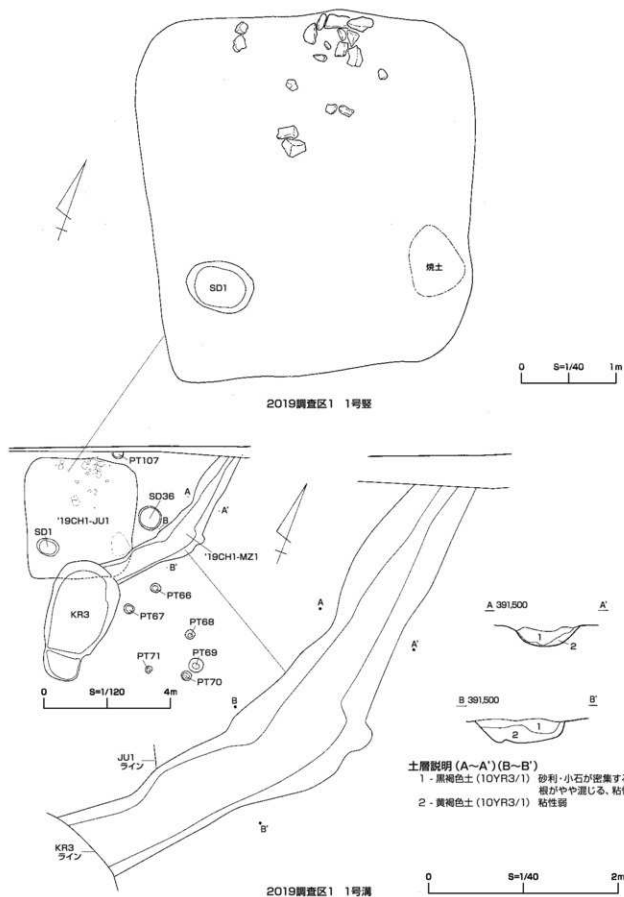
第10図 2018年度 調査区2 2号竪 平・断面図 (S=1/40・1/60)



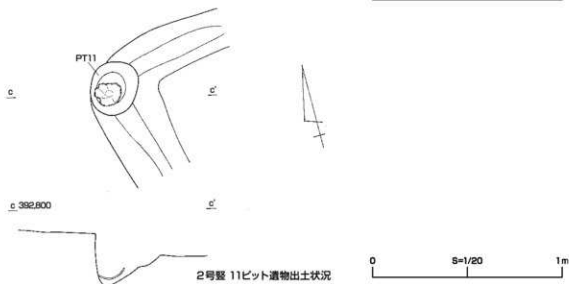
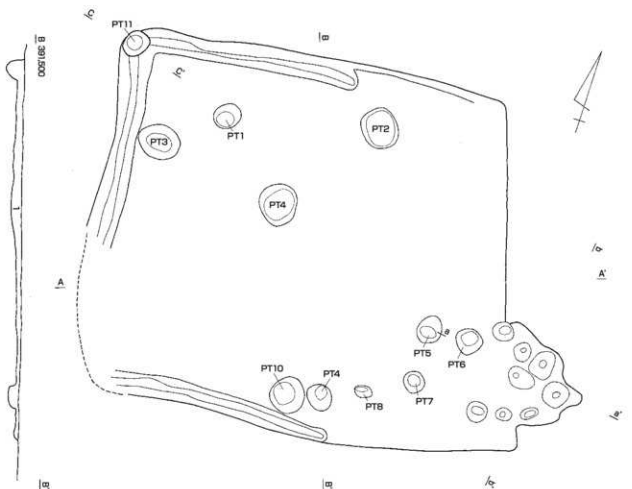
第11図 2018年度 調査区2 1号溝・2号溝 平・断面図 (S=1/60)



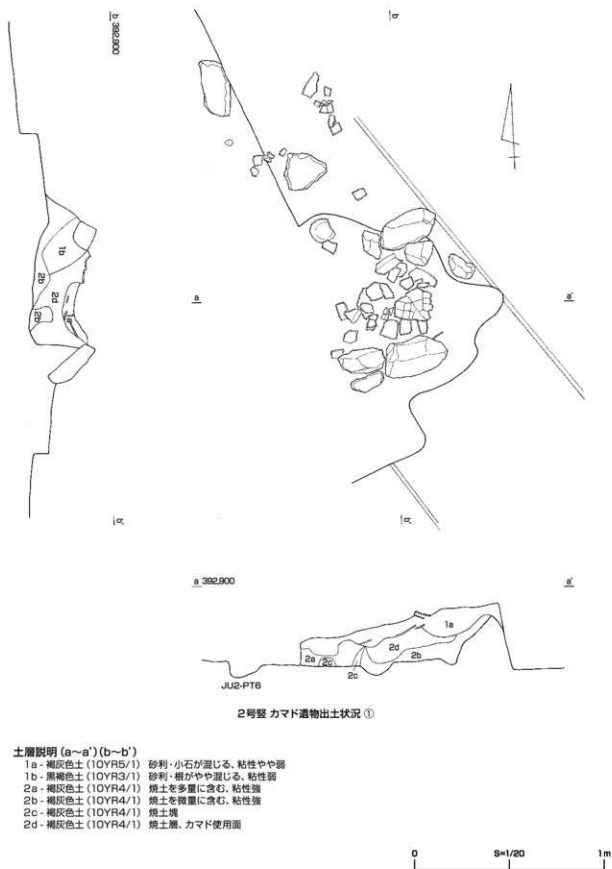
第12図 2018年度 調査区2 2号・3号土坑、4号土坑 平・断面図 (S=1/20)



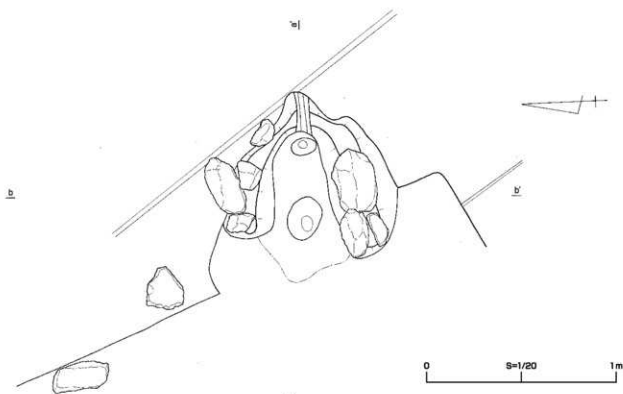
第13図 2019年度 調査区1 1号竪、1号溝 平・断面図 (S=1/40・1/120)



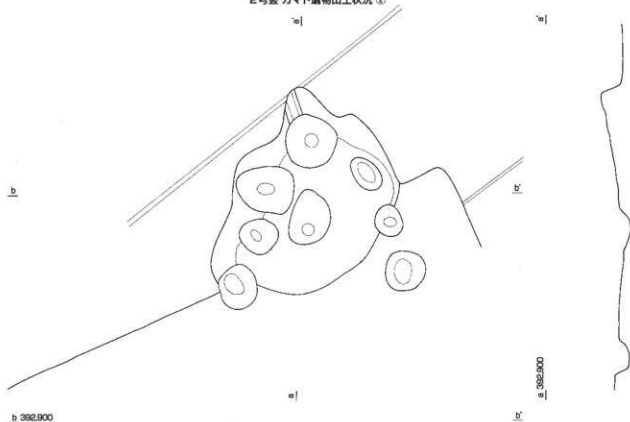
第14図 2019年度 調査区1 2号竪 平・断面図 ① (S=1/20・1/40)



第15図 2019年度 調査区1 2号竪 平・断面図 ② (S=1/20)

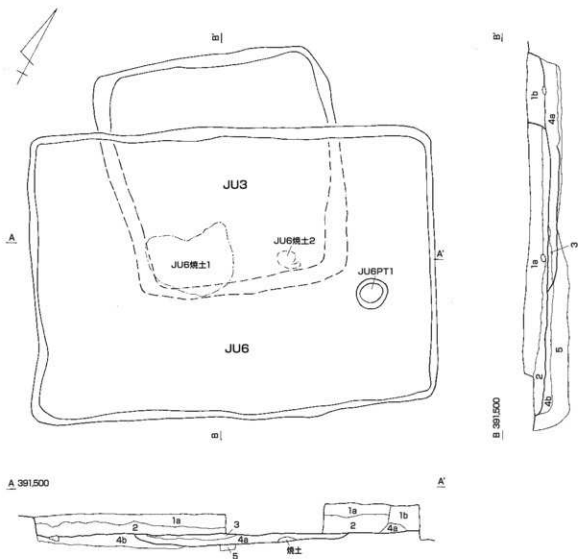


2号竈 カマド遺物出土状況 ②



2号竈 カマド完備状況

第16図 2019年度 調査区1 2号竈 平・断面図 ③ (S = 1/20)

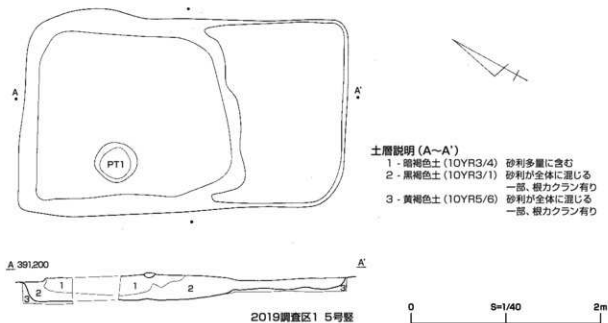
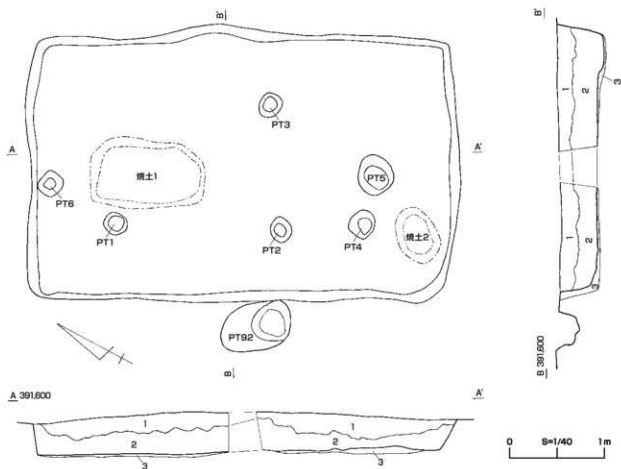


土層説明 (A~A')(B~B')

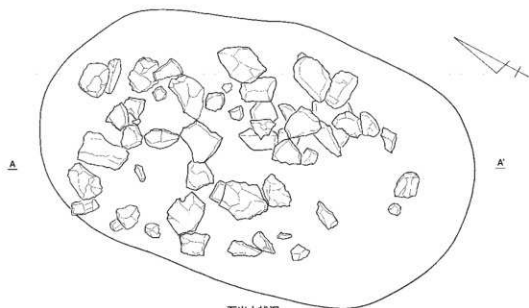
- 1a・褐灰色土 (10YR6/1) 焼土・炭化物多く混じる、根有り
 1b・褐灰色土 (10YR6/1) 焼土・炭化物若干混じる、根有り
 2・褐灰色土 (10YR4/1) 小石・砂利・根が混じる
 3・赤褐色土 (10R5/4) 焼土層、炭化物層に混じる
 4a・黒褐色土 (10YR3/1) 3層焼土層の下部に炭化物含む
 4b・黒褐色土 (10YR3/1) 小石・砂利・根が混じる
 5・黄褐色土 (10YR5/8) 砂利・小石混じる

0 S=1/40 2m

第17図 2019年度 調査区1 3号・6号竪 平・断面図 (S=1/40)



第18図 2019年度 調査区1 4号竪・5号竪 平・断面図 (S=1/40)



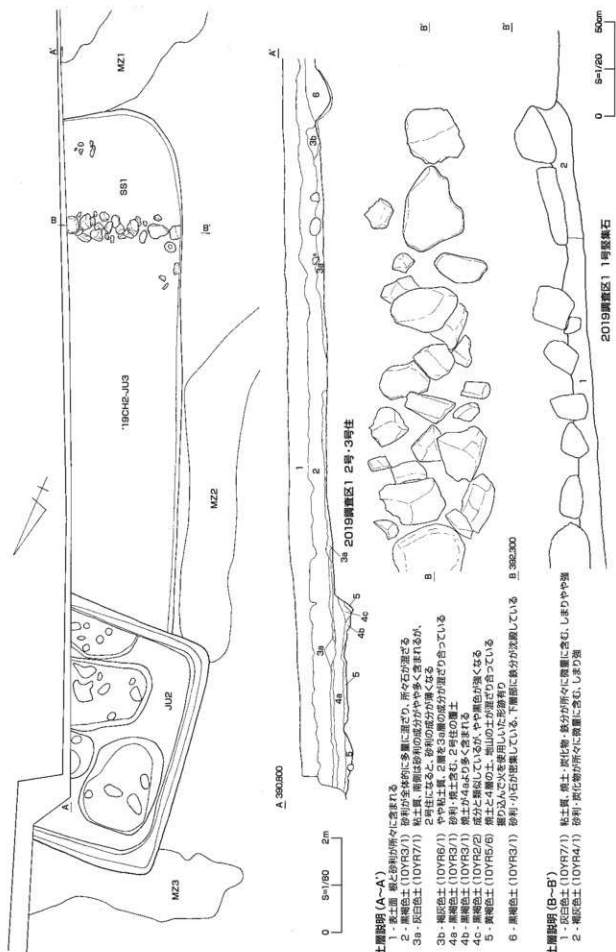
石出土状況



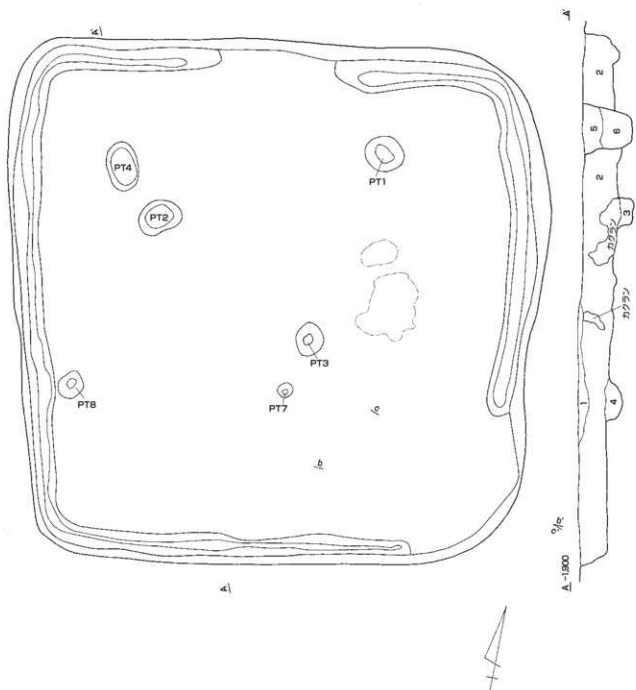
完備状況



第19図 2019年度 調査区1 1号集石 平・断面図 (S=1/20)



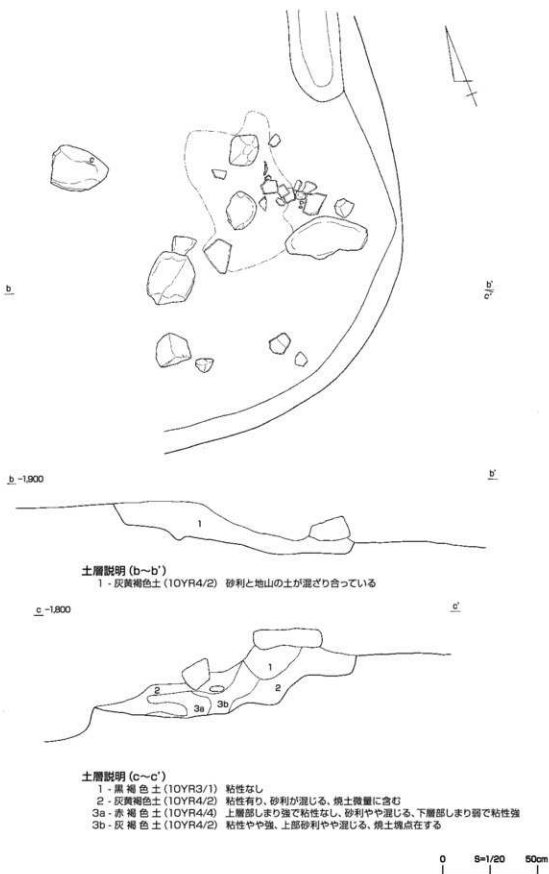
第22図 2019年度 調査区2 2号壁・3号壁、1号壁集石 平・断面図 (S=1/20・1/80)



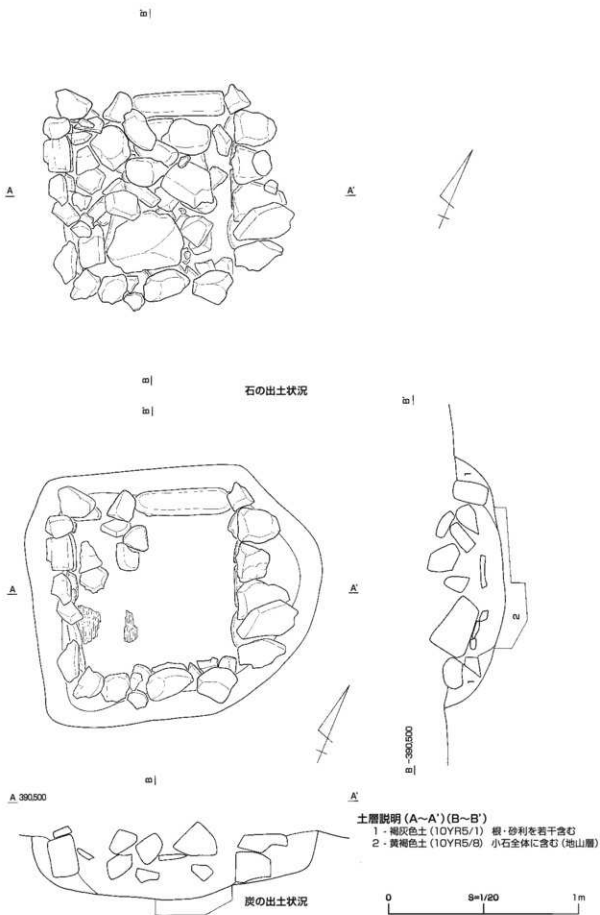
土層説明 (A~A')

- 1 - 砂利層
- 2 - 灰黄褐色土 (10YR4/2) 層全体に砂利多量に含む、根少々含む、やや粘土質
- 3 - 黒褐色土 (10YR3/1) 砂利やや含む、土器出土・住居内遺構の可能性有り
- 4 - 黄褐色土 (10YR5/6) 粘土質、砂利やや含む
- 5 - 褐灰色土 (10YR4/1) 粘土質、砂利やや含む。地山を削っている
- 4 - 黒褐色土 (10YR3/1) 地山土と砂利が混じっている、生活時に埋めている可能性有り

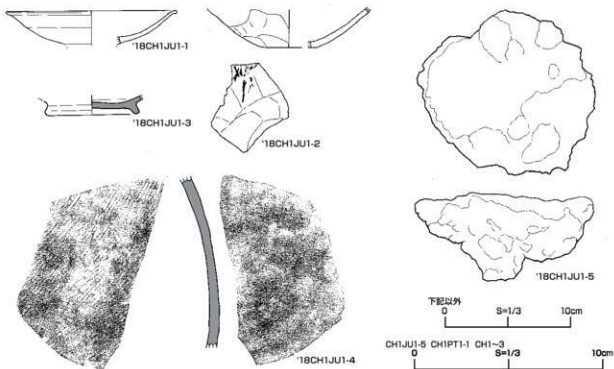
第23図 2019年度 調査区2 4号竖 平・断面図 (S=1/40)



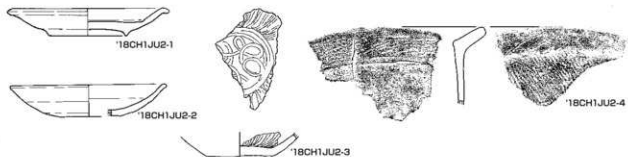
第24図 2019年度 調査区2 4号竪カマド 平・断面図 (S=1/20)



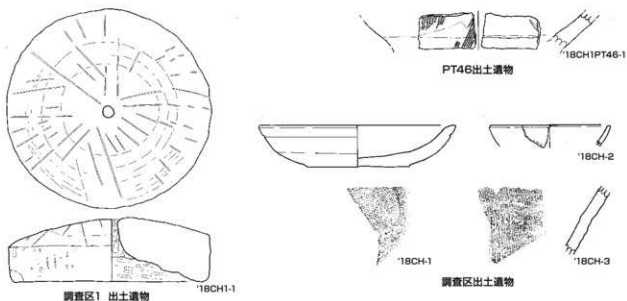
第25図 2019年度 調査区2 2号集石 平・断面図 (S=1/20)



調査区1 1号竪 出土遺物



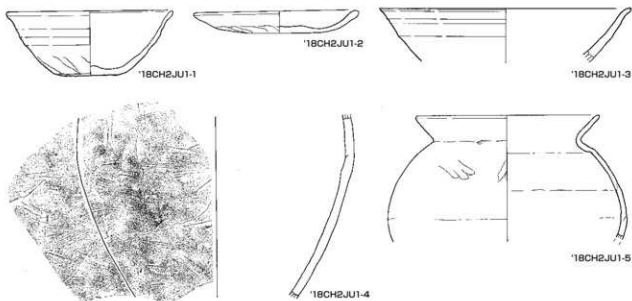
調査区1 2号竪 出土遺物



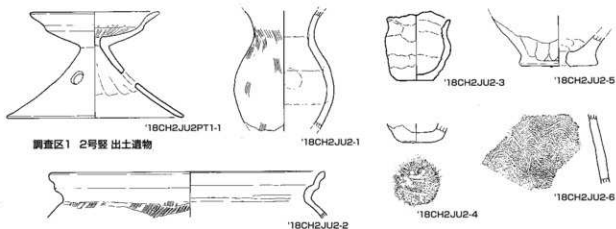
調査区1 出土遺物

調査区出土遺物

第26図 2018年度調査区1 1号竪・2号竪・46号ピット 調査区出土遺物 (S=1/2・1/3)

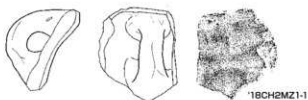


調査区1 1号竪 出土遺物



調査区1 2号竪 出土遺物

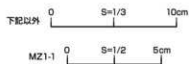
調査区2 2号竪 出土遺物



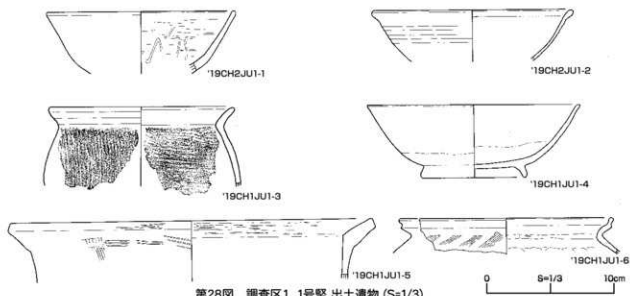
1号溝 出土遺物



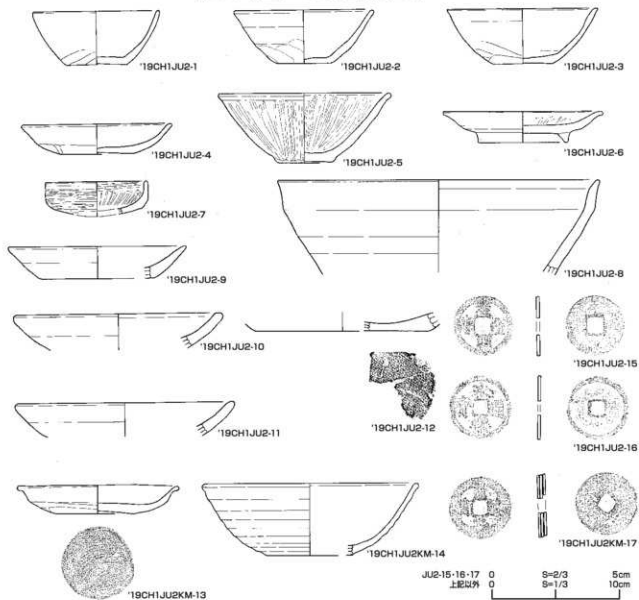
調査区2 出土遺物



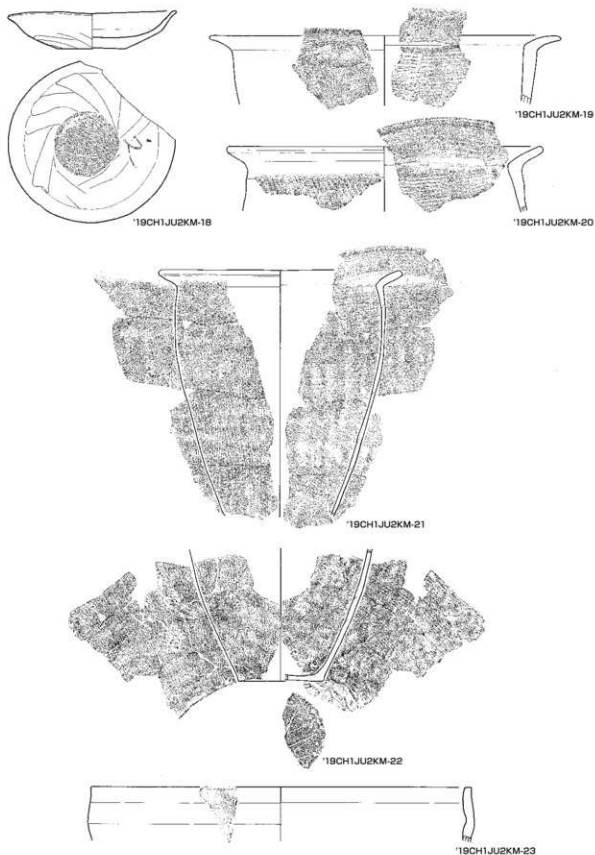
第27図 2018年度 調査区2 1・2号竪・1号溝 調査区2 出土遺物 (S=1/3)



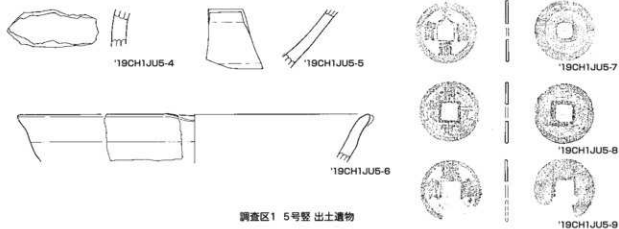
第28図 調査区1 1号竖 出土遺物 (S=1/3)



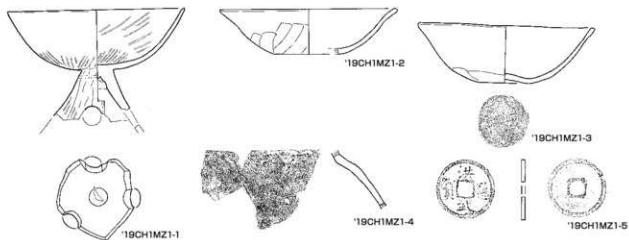
第29図 2019年度 調査区1 2号竖 出土遺物 (S=1/2・1/3)



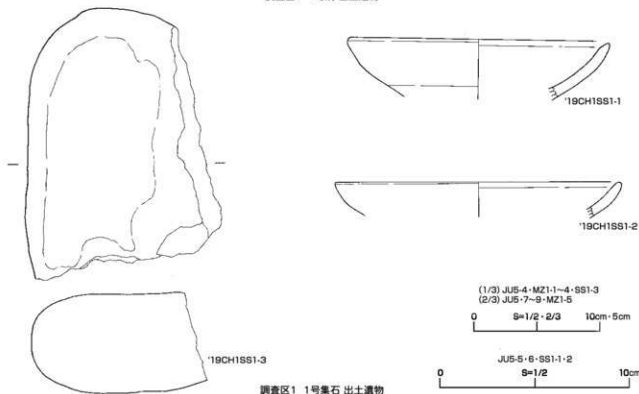
第30図 2019年度 調査区1 2号竪 カマド 出土遺物 (S=1/3)



調査区1 5号竪 出土遺物

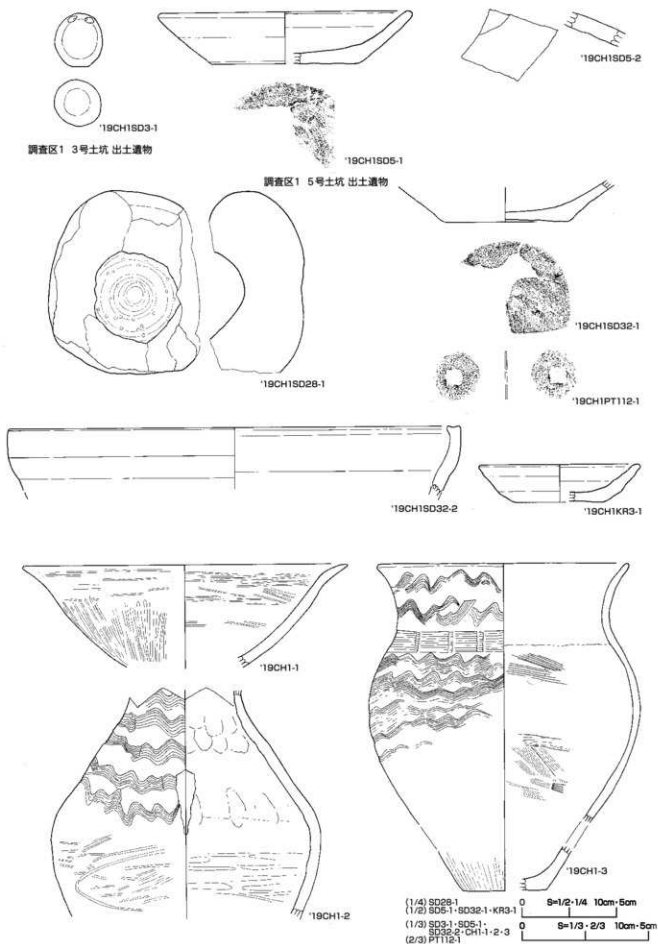


調査区1 1号溝 出土遺物

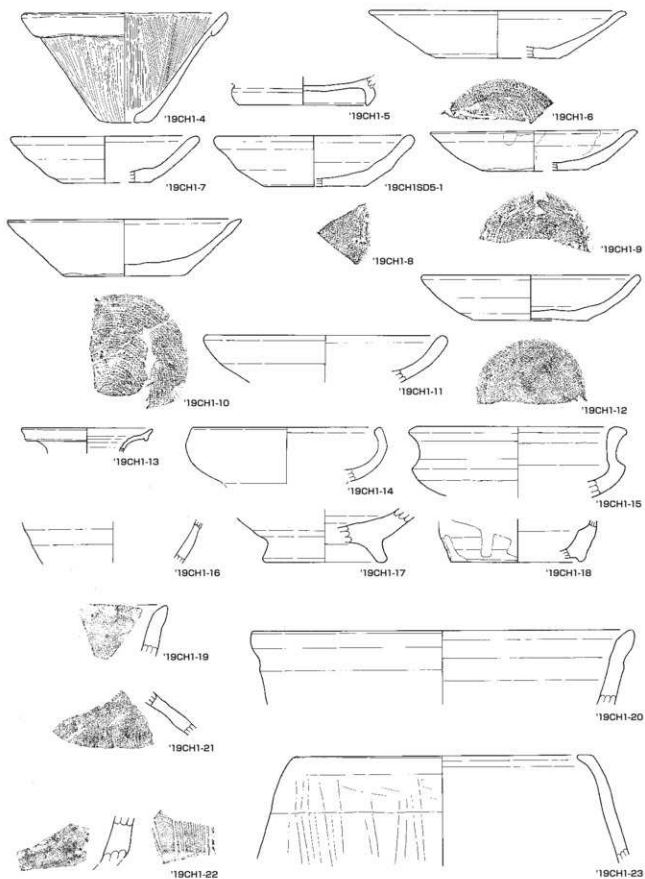


調査区1 1号集石 出土遺物

第32図 2019年度 調査区1 5号竪・1号溝・1号集石 出土遺物 (S=1/2・1/3)

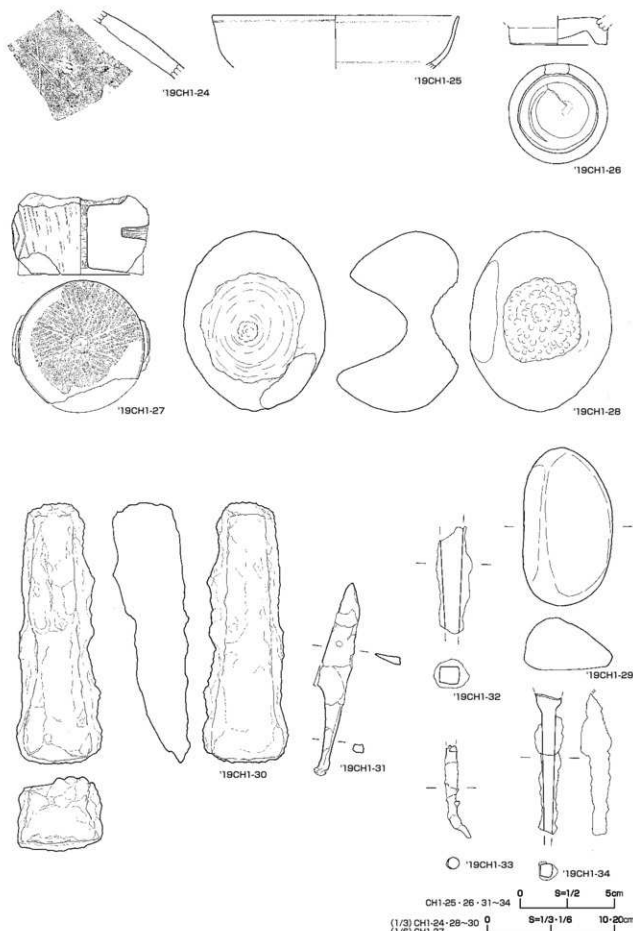


第33図 2019年度 調査区1 土坑・ピット調査区 出土遺物 (S=1/2・1/4・1/3・2/3)

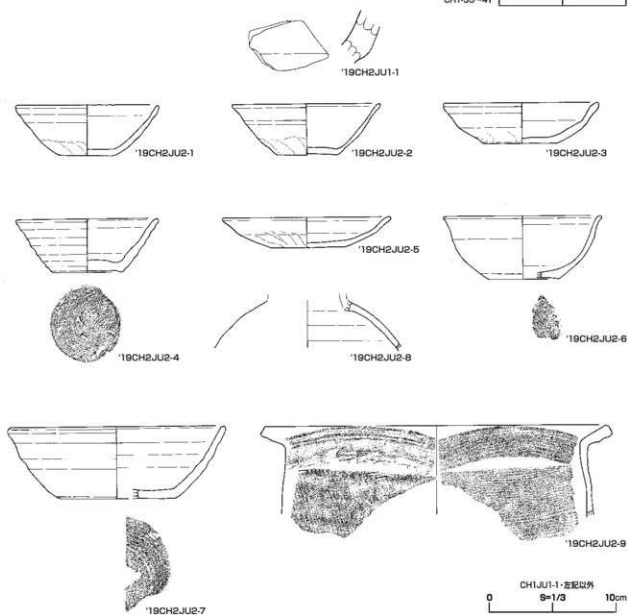
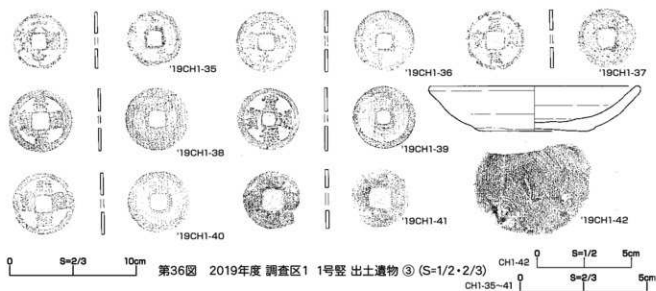


CH1-6~12・14~16・18 0 S=1/2 5cm
CH1-4・5・13・17・19~23 0 S=1/3 5cm

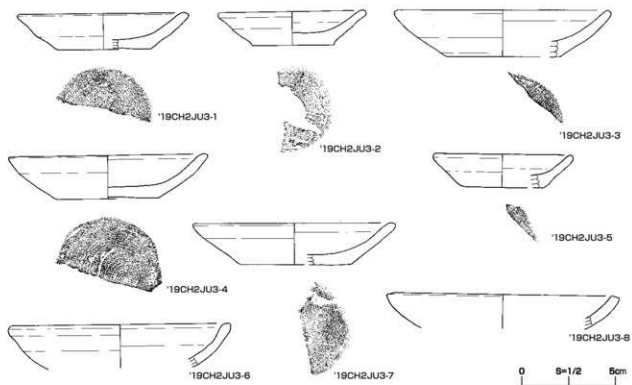
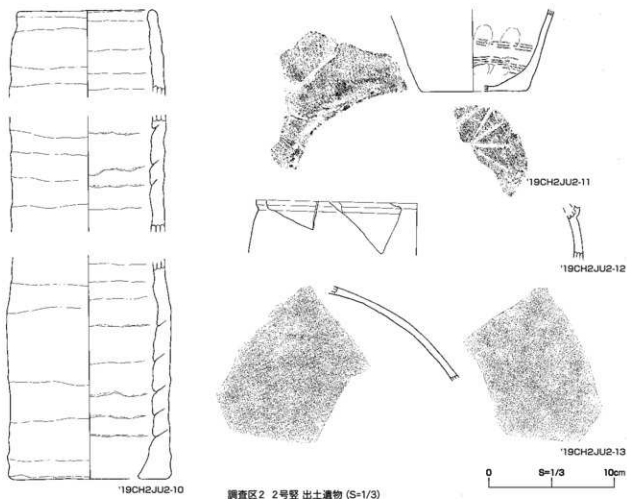
第34図 2019年度 調査区1 出土遺物 ① (S=1/2・1/3)



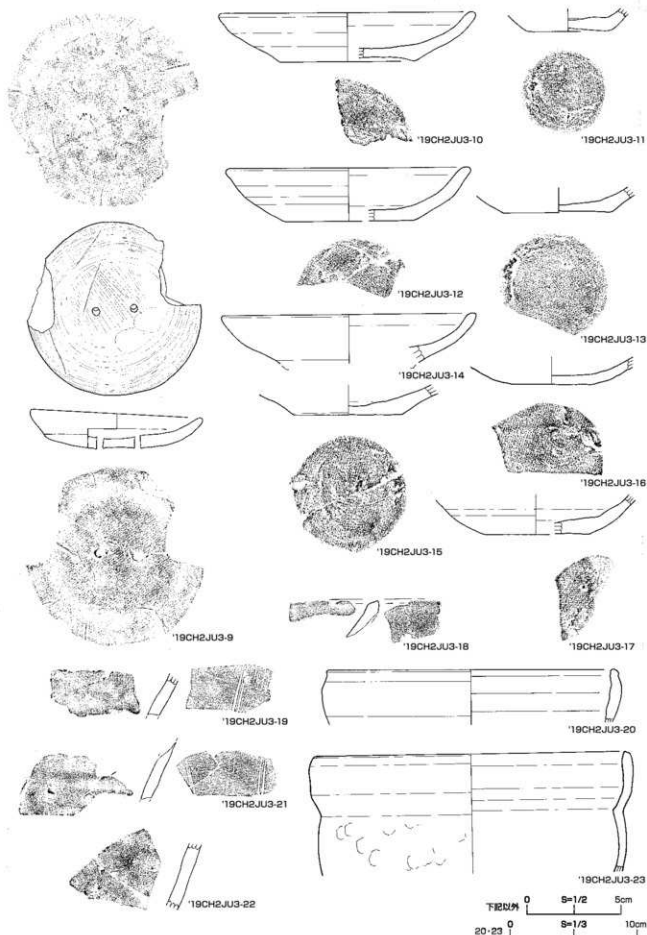
第35図 2019年度 調査区1 出土遺物 ② (S=1/2・1/3)



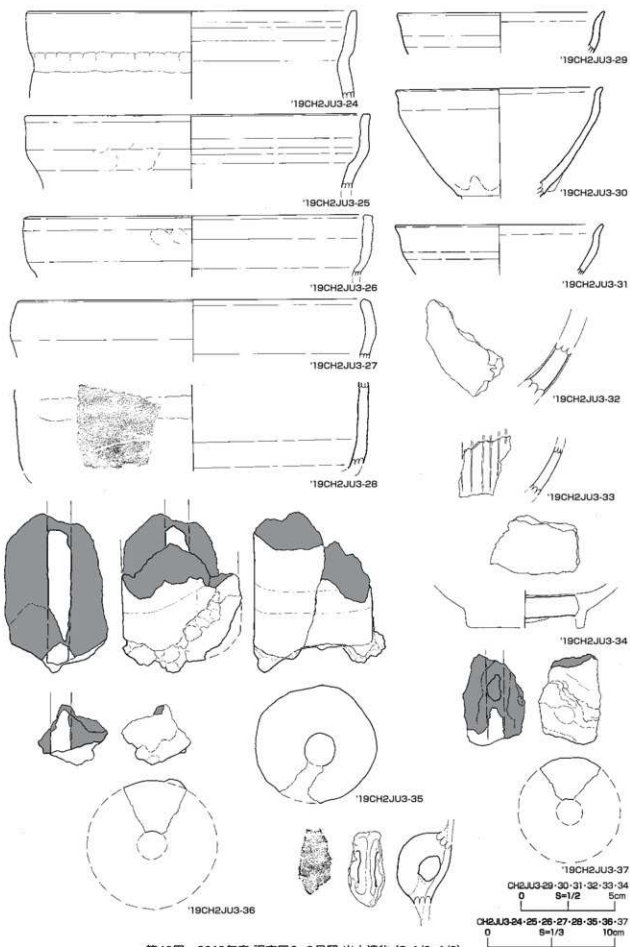
第37図 2019年度 調査区2 1・2号 出土遺物 (S=1/2・1/3・2/3)



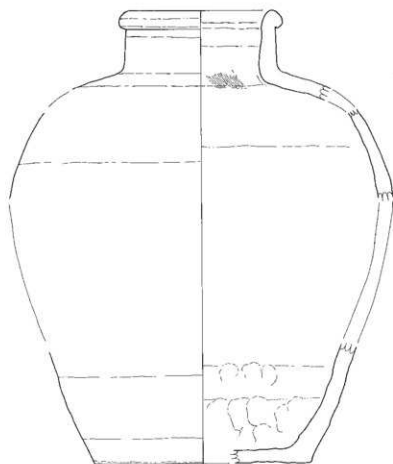
第38図 2019年度 調査区2 2・3号竪 出土遺物 (S=1/2・1/3)



第39図 2019年度 調査区2 3号竪 出土遺物 (S=1/2・1/3)



第40図 2019年度 調査区2 3号 出土遺物 (S=1/2・1/3)



CH2JU3-39・40・42
0 S=1/2 5cm

CH2JU3-38・41
0 S=1/3 10cm



調査区2 3号竪 出土遺物 (S=1/2・1/3)



'19CH2JU4-1



'19CH2JU4-2



'19CH2JU4-3



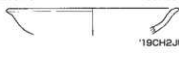
'19CH2JU4-4



'19CH2JU4-5



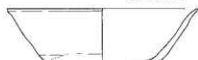
'19CH2JU4-6



'19CH2JU4-7



'19CH2JU4-8



'19CH2JU4-9



'19CH2JU4-10



'19CH2JU4-11



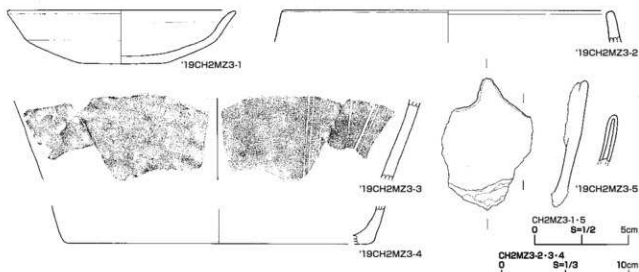
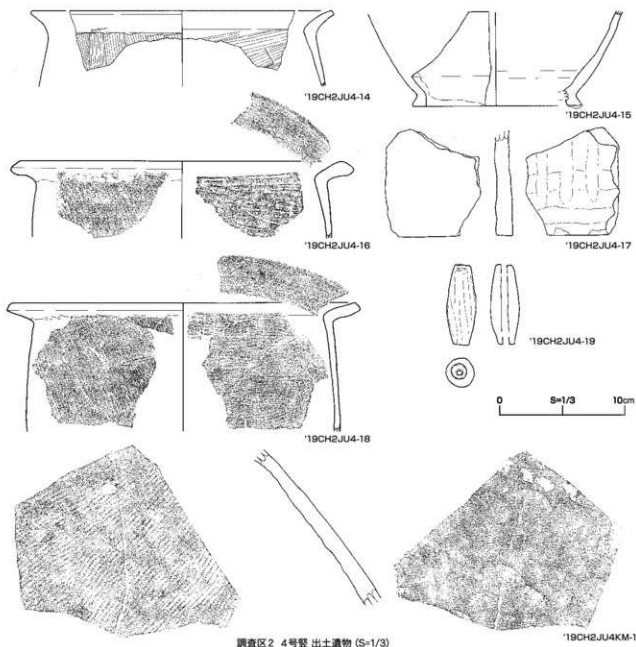
'19CH2JU4-13

0 S=1/3 10cm

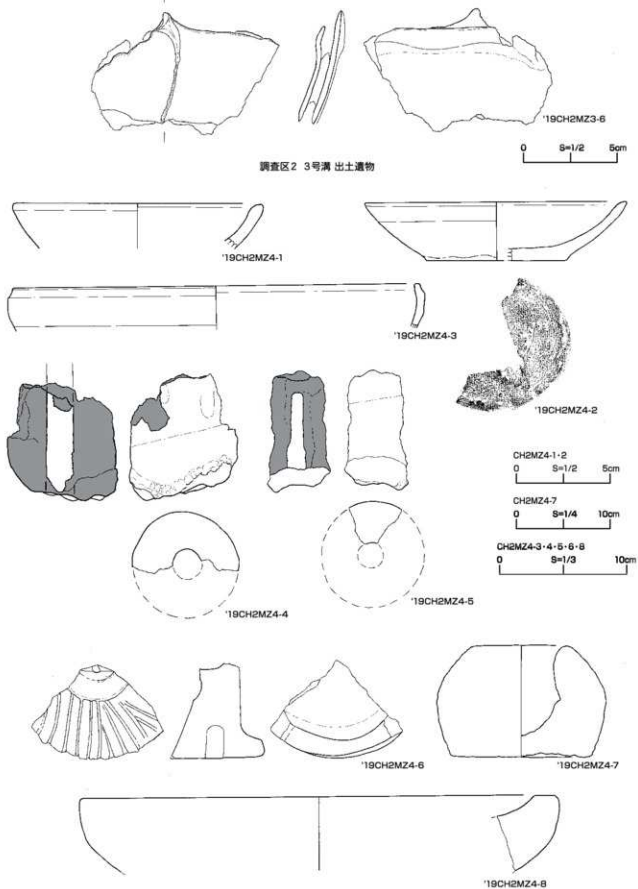


'19CH2JU4-12

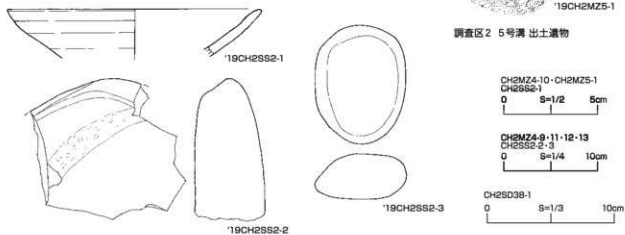
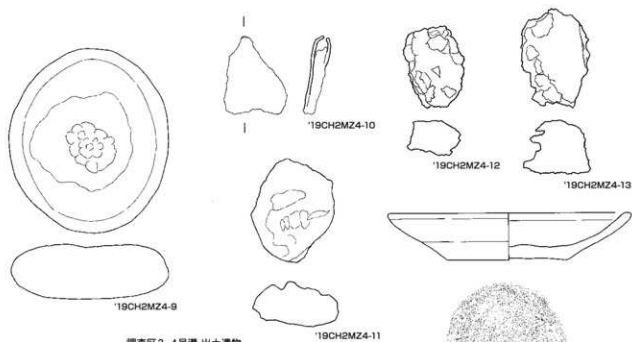
第41図 2019年度 調査区2 3・4号竪 出土遺物 (S=1/2・1/3)



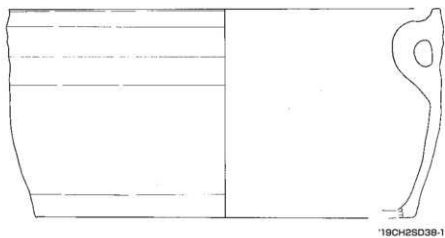
第42図 2019年度 調査区 2 4号竪・3号溝 出土遺物 (S=1/2・1/3)



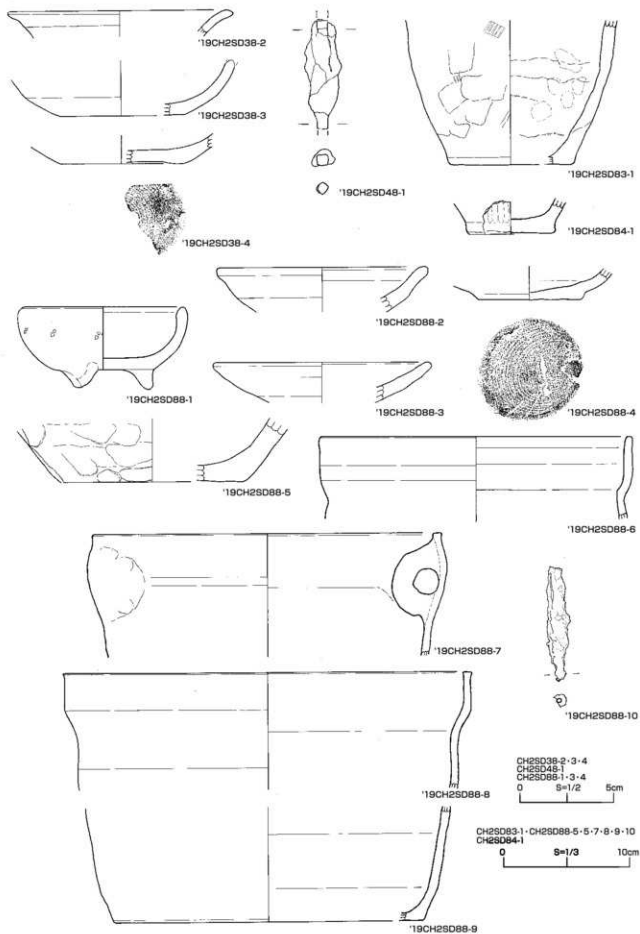
第43図 2019年度 調査区2 3・4号溝 出土遺物 (S=1/2・1/3・1/4)



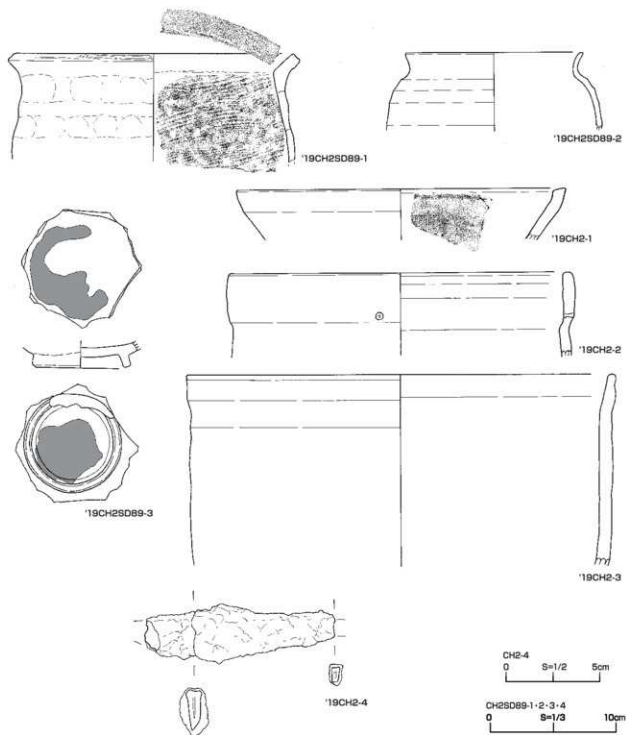
調査区2 2号集石 出土遺物



第44図 2019年度 調査区2 4・5号溝・2号集石・38号土坑 出土遺物 (S=1/2・1/3・1/4)



第45図 2019年度 調査区2 38・48・83・84・88号土坑 出土遺物 (S=1/2・1/3)



第46図 2019年度 調査区2 89号土坑・遺構外 出土遺物 (S=1/2・1/3)

写 真 图 版



『18 調査区全体写真



『19 調査区1 全体写真



『19 調査区2 全体写真



'18 調査区 1 1号竪穴建物完掘状況



'18 調査区 1 2号竪穴建物完掘状況



'18 調査区 2 1号竪穴建物 遺物出土状況①



'18 調査区 2 1号竪穴建物 遺物出土状況②



'18 調査区 2 1号竪穴建物 完掘状況



'18 調査区 2 1号竪穴建物 カマド検出状況



'18 調査区 2 2号竪穴建物 炭化材出土状況



'18 調査区 2 2号竪穴建物 完掘状況



'19 調査区 1 1号竪穴建物検出状況



'19 調査区 1 1号竪穴建物カマド検出状況



'19 調査区 1 2号竪穴建物完掘状況



'19 調査区 1 2号竪穴建物カマド検出状況



'19 調査区 1 2号竪穴建物カマド出土遺物



'19 調査区 1 3号・6号竪穴建物完掘状況



'19 調査区 1 4号竪穴建物完掘状況



'19 調査区 1 5号竪穴建物完掘状況



‘19 調査区 2 1号竪穴建物完掘状況



‘19 調査区 2 2号竪穴建物完掘状況



‘19 調査区 2 2号竪穴建物遺物出土状況①



‘19 調査区 2 2号竪穴建物遺物出土状況②



‘19 調査区 2 3号竪穴建物完掘状況



‘19 調査区 2 2号集石検出土状況



‘19 調査区 2 3号竪穴建物遺物出土状況①



‘19 調査区 2 3号竪穴建物遺物出土状況②



‘19 調査区 2 4号竪穴建物完掘状況



‘19 調査区 2 4号竪穴建物遺物検出状況



‘19 調査区 2 4号竪穴建物力マド調査状況



‘19 調査区 2 1号集石検出状況



‘18 出土遺物① (弥生後半～古墳前期)



‘18 出土遺物②



‘19 調査区 1 2号竪穴建物出土遺物①



‘19 調査区 1 2号竪穴建物出土遺物②



'19 調査区 1 2号竪穴建物出土遺物 (灰釉陶器)



'19 調査区 1 2号竪穴建物出土遺物 (黒書土器)



'19 調査区 1 4号竪穴建物出土遺物



'19 調査区 1 5号竪穴建物出土遺物



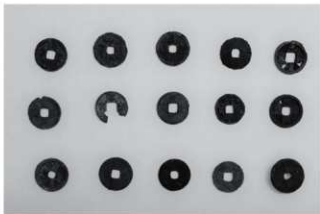
'19 調査区 1 6号竪穴建物出土遺物



'19 調査区 1 出土 中世土器



'19 調査区 1 出土 中世陶磁器



'19 調査区 1 出土 古銭



‘19 調査区 1 出土 鉄製品 (上)



‘19 調査区 1 出土 鉄製品 (横)



‘19 調査区 2 2号竪穴建物出土遺物 (土師器)



‘19 調査区 2 2号竪穴建物出土遺物 (円筒土器)



‘19 調査区 2 2号竪穴建物出土完形土器 (内)



‘19 調査区 2 2号竪穴建物出土完形土器 (外)



‘19 調査区 2 3号竪穴建物出土遺物 (かわらけ)



‘19 調査区 2 3号竪穴建物出土遺物 (銅・鉢類)



'19 調査区 2 3号竪穴建物出土 甕の羽口 (内)



'19 調査区 2 3号竪穴建物出土 甕の羽口 (外)



'19 調査区 2 3号竪穴建物出土 青磁



'19 調査区 2 3号竪穴建物出土 信楽焼



'19 調査区 2 3号溝出土 青銅製品



'19 調査区 2 4号竪穴建物出土遺物①



'19 調査区 2 4号竪穴建物出土遺物②



現地説明会様子

報告書抄録

ふ り が な	あおきひがしだいせきせいてつまちあおき 1975 ばんほかちてんはつくつちようさほうこくしょ
書 名	青木東田遺跡（清哲町青木 1975 番 外地点）発掘調査報告書
副 書 名	県営中山間地域総合整備事業 武田の里地区農業基盤整備工事に伴う発掘調査
編 著 者 名	半澤直史
編 集 機 関	荊崎市教育委員会
住 所	〒407-8501 山梨県荊崎市水神 1-3-1
発 行 年 月 日	令和 3 年 3 月 31 日
ふ り が な	あおきひがしだいせき
所 収 遺 跡 名	青木東田遺跡
所 在 地	山梨県荊崎市清哲町青木 1975 番外
市 町 村 コー ド	19207
遺 跡 番 号 コー ド	F-10
調 査 期 間	平成 30 年 5 月～令和 2 年 3 月
調 査 面 積	3400 m ²
調 査 原 因	農業基盤整備事業
種 別	集落跡
主 な 時 代	平安時代・中世
主 な 遺 構	建物跡・溝状遺構・集石遺構・鍛冶遺構・地下式坑
主 な 遺 物	土師器・須恵器・灰輪陶器・かわらけ・内耳鍋・青磁・白磁・常滑
特 記 事 項	

青木東田遺跡

（清哲町青木 1975 番 外地点）発掘調査報告書

発行日 令和 3 年（2021）3 月 31 日

発 行 荊崎市教育委員会
〒407-8501
山梨県荊崎市水神一丁目 3 番 1 号
TEL 0551-22-1111（代表）

印 刷 有限会社 タクト